



Kodak

i24x0/i26x0/i28x0 スキャナー

TWAIN アプリケーション用
スキャンセットアップガイド

TWAIN データソースのスキャンセットアップガイド

[Scan Validation Tool] の起動.....	2
[Scan Validation Tool] ダイアログボックス	3
TWAIN データソースの使用	4
開始方法.....	5
イメージ設定の選択.....	6
デバイス設定の選択.....	7
スキャナーメインウィンドウ	8
イメージ設定ウィンドウ	11
プレビューウィンドウ.....	13
[一般] タブ.....	14
[サイズ] タブ.....	16
[調整] タブ：白黒.....	19
[調整] タブ：カラー／グレースケール	21
[拡張機能] タブ	23
[検知] タブ.....	25
詳細イメージセットアップ	27
[詳細] タブ.....	27
[書類タイプの設定] タブ.....	30
例 1：書類の色量を基にカラー／グレースケールと白黒ス キャンを切替え.....	32
例 2：書類の各面に対して複数イメージを作成	34
例 3：書類の両面にそれぞれ異なる設定を使用	36
新しい設定のショートカットの作成	37
イメージ設定の変更.....	39
デバイス設定ウィンドウ	40
デバイス - [一般] タブ	41
デバイス - [トランスポート] タブ.....	43
デバイス - [重送検知] タブ	44
デバイス設定の変更.....	46
[診断] ウィンドウ	47
診断 - [一般] タブ	47
診断 - [デバッグ] タブ	49
診断 - [ログ] タブ	50

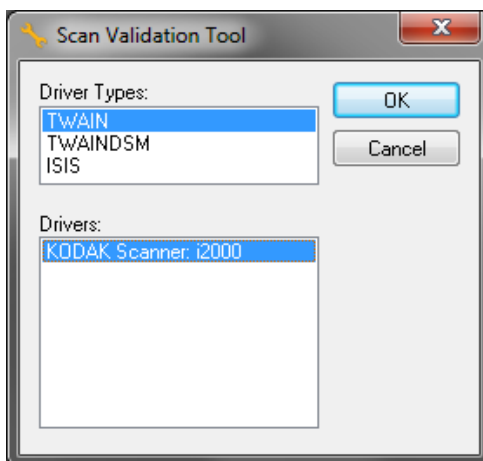
コダック i2400/i2600/i2800/i2420/i2620/i2820 スキャナーのイメージ処理機能によって、高画質のスキャン画像が取得できます。

イメージ処理とはそれぞれのイメージに対して給紙の傾き調整や不要な枠消し、イメージのノイズ除去などスキャン画像の質を自動的に向上させる機能のことです。

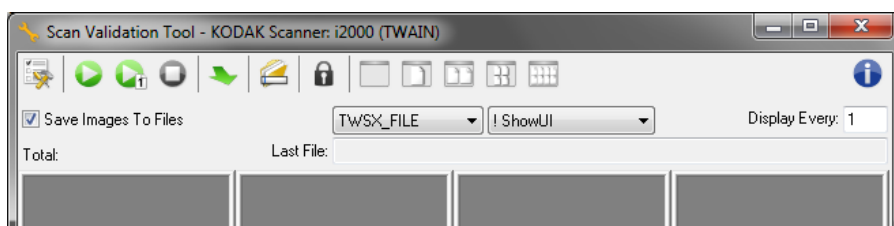
本ガイドでは TWAIN データソースの使用手順やスキャナーの機能について説明します。これらの機能は、使用しているスキャンアプリケーション（コダックキャプチャソフトウェアなど）のユーザインターフェースでも選択できます。

[Scan Validation Tool] の起動

1. [スタート]>[プログラム]>[Kodak]>[Document Imaging]>[Scan Validation Tool] を選択します。



2. [ドライバの種類] から [TWAIN] を選択し、[ドライバ] から [Kodak Scanner i2000] を選択します。[Scan Validation Tool] ダイアログボックスが表示されます。



[Scan Validation Tool] ダイアログボックス

Scan Validation Tool は Kodak Alaris Inc. が提供する診断アプリケーションです。SVT のユーザインターフェイスを使用すると、スキャナーのすべての機能にアクセスできるので、スキャナーが正常に動作しているかどうか効率的にチェックできます。Scan Validation Tool では、TWAIN データソースや ISIS ドライバを使用してスキャナー機能を検証できます。



ツールバーボタン



セットアップ — 選択されたドライバ用のユーザインターフェイスを表示します。



保存先 — スキャンしたイメージを保存するディレクトリとファイル名を選択します。このオプションは、[イメージをファイルに保存]を選択した場合にのみ利用できます。



スキャン開始 — 入力トレイにある原稿をスキャンします。



1 ページスキャン — 1 ページだけスキャンします。



停止 — スキャンを終了します。



ライセンスキー — [ライセンスキー] ウィンドウを表示します。



表示モード (画像なし) — イメージビューアウィンドウを閉じます (イメージは表示されません)。



表示モード (1 画像) — 1 回に 1 枚のイメージを表示します。



表示モード (2 画像) — 1 回に 2 枚のイメージを表示します。



表示モード (4 画像) — 1 回に 4 枚のイメージを表示します。



表示モード (8 画像) — 1 回に 8 枚のイメージを表示します。

イメージをファイルに保存 — 選択すると、指定したディレクトリにイメージが保存されます。

指定数ごとに表示 — スキャン中に表示するイメージのサンプリングレートを入力します。たとえば、すべてのイメージを表示する場合は「1」を入力します。イメージを 10 個おきに表示する場合は「10」を入力します。

合計 — 現在の [Scan Validation Tool] セッションでスキャンされた画像の総数を表示します。

- TWAIN データソースにアクセスするには、[Scan Validation Tool] ダイアログボックスの**セットアップアイコン**をクリックします。

最後のファイル — 最後に保存した画像のフルパスとファイル名を表示します。

TWAIN データソースの使用

コダック i2400/i2600/i2800/i2420/i2620/i2820 スキャナは、ご使用のスキュンアプリケーションと連携動作する、TWAIN データソースを使用することで様々なイメージを提供できます。TWAIN データソースは、スキュンアプリケーションにスキャナーをリンクさせるスキュンシステムの一部です。

TWAIN データソースを使用すると、スキャナーメインウィンドウに設定のショートカットが一覧表示されます。それぞれの [設定のショートカット] は特定のイメージとデバイス設定のグループです。[設定のショートカット] には、さまざまな原稿に対応する、一連の出力設定が定義されています。いずれの [設定のショートカット] も希望に満たない場合は、カスタマイズした設定のショートカットを作成できます。たとえば、「請求書」という名前の設定ショートカットを作成し、請求書をスキュンする場合は [設定のショートカット] を選択するだけでスキュンできます。

ISIS ドライバを使用している場合は、「ISIS ドライバの使用」で詳細を参照してください。

開始方法

最終的な目的は、できるだけ簡単にスキャン処理を実行することにあります。スキャナーメインウィンドウから [設定のショートカット] を選択し、[OK] / [スキャン] を選択するだけで実行できます。

このスキャナーでは既にいくつかの [設定のショートカット] が定義されています。ほとんどの場合、これらのショートカットで必要なすべての作業を実行できます。別の設定が必要な場合は、独自のショートカットを作成する必要があります。作成したショートカットは [設定のショートカット] のリストに追加され、以降のスキャンに使用できます。

オプションの大半は、以下の2つのウィンドウにあります。

- **イメージ設定** : スキャナーメインウィンドウの [設定] ボタンをクリックすると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。このウィンドウの [一般]、[サイズ]、[調整]、[拡張機能] タブを使って、イメージ処理パラメータを設定できます。また、[デバイス] ボタンをクリックしてデバイス設定を行ったり、[詳細イメージセットアップ] アイコンをクリックして詳細設定ができます。
- **デバイス設定** : [デバイス] ボタンは、イメージ設定ウィンドウにあります。[デバイス] を選択すると、[一般] タブや [重送検知] タブが表示されます。デバイス設定ウィンドウでは、[診断] にアクセスすることもできます。

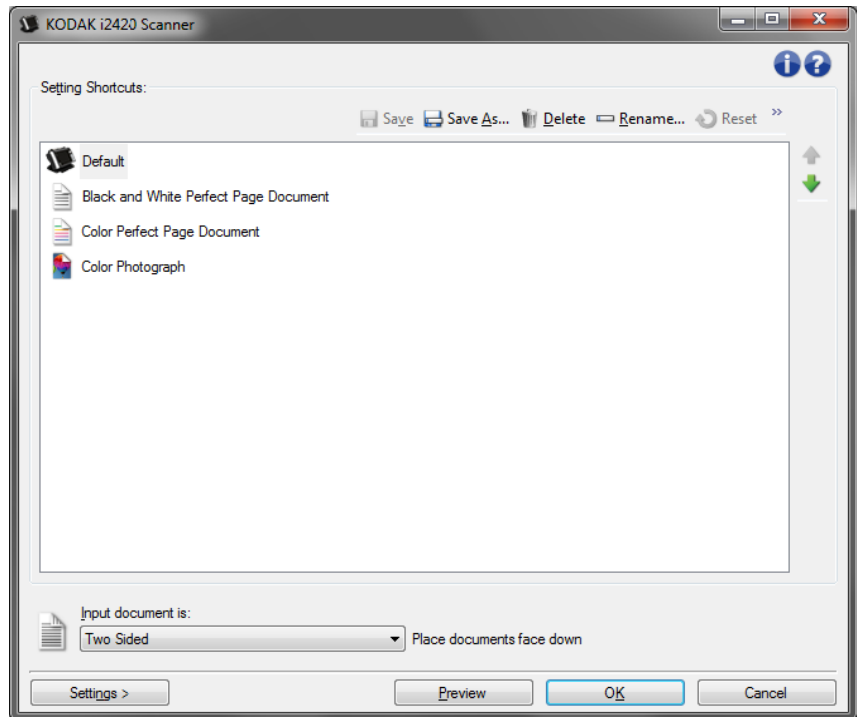
以降の手順は、ショートカットの設定方法について説明しています。スキャナーメインウィンドウの各機能とオプションの詳細な説明は、「スキャナーメインウィンドウ」を参照してください。

注 : 設定のショートカットの設定が、スキャンアプリケーションの設定に優先することがあります。このような場合、スキャナーメインウィンドウのショートカット名の隣に、「< 変更済み >」という文字が表示されます。設定のショートカットを使用せず、まず個人設定をスキャナーにダウンロードしてから、TWAIN データソースにアクセスするアプリケーションで、このような状況が発生します。

[OK] をクリックしてスキャンを開始すると、設定の変更を保存するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。設定のショートカットを利用しないアプリケーションを使用する場合は、この問い合わせに対して [いいえ] を選択してスキャン処理を続行してください。

イメージ設定の選択

スキャナーメインウィンドウから、以下の作業を行います。

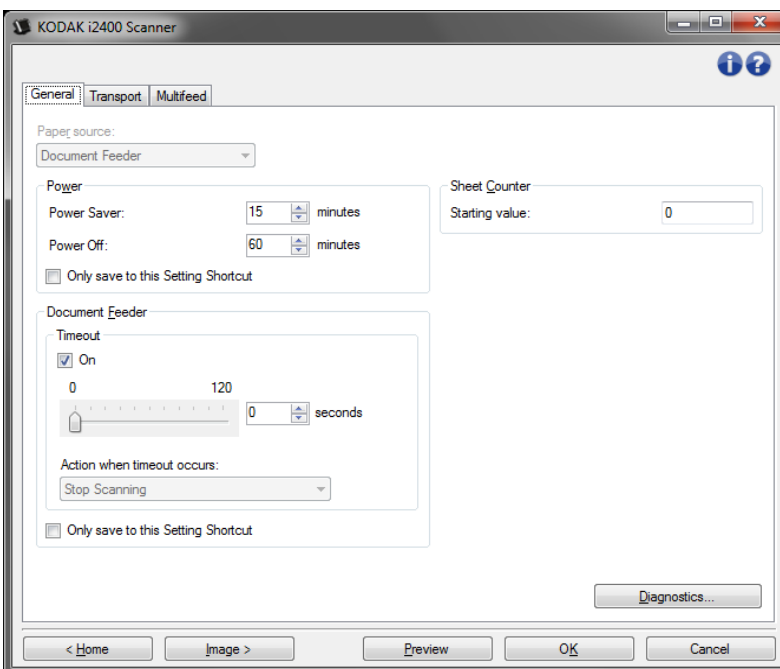


1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の **【設定のショートカット】** を選択します。
2. スキャナーメインウィンドウから、**【入力ドキュメントのタイプ】** を選択します。
3. **【設定】** を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
4. 設定内容を変更する前に、イメージ設定ウィンドウの各タブをクリックして、どのようなオプションや機能があるかを確認します。
5. スキャン時に実行する各オプションを適切に選択します。
6. 選択したオプションによって、どのような効果が現れるかを確認する場合は、次の操作を実行します。
 - スキャナーの入カトレイに原稿を1枚セットします。
 - **【プレビュー】** を選択して、プレビュースキャンを実行します。

注：表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別の**設定のショートカット**を利用して設定を変更するか、もう一度イメージ設定ウィンドウの各タブを確認しながら現在の**設定のショートカット**を調整します。この手順は必要に応じて繰り返します。
7. 設定が完了したら、**【ホーム】** を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、**【保存】** を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

デバイス設定の選択

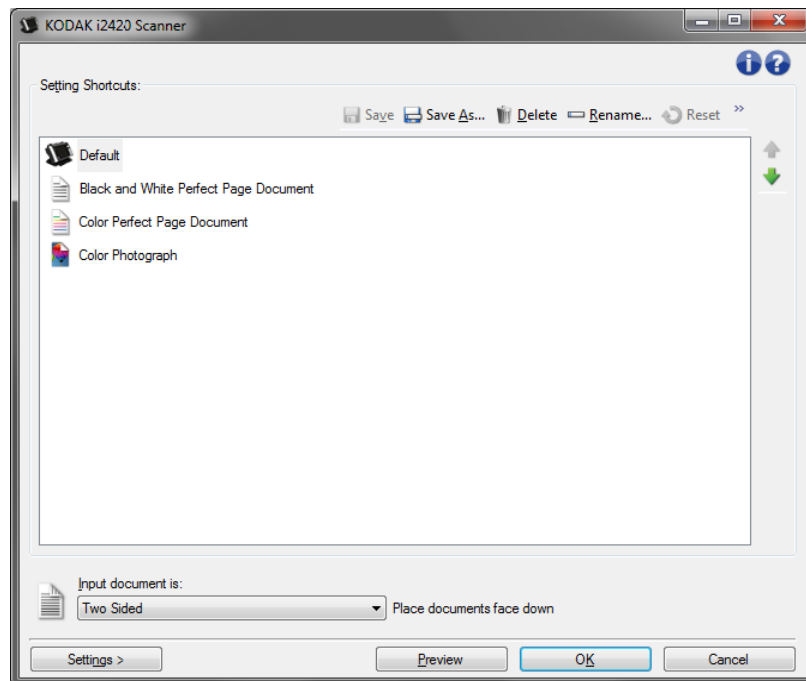
1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の [設定のショートカット] を選択します。
2. [設定] を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. [デバイス] を選択します。デバイス設定ウィンドウが表示されます。



4. 設定内容を変更する前に、デバイス設定ウィンドウの各タブをクリックして、どのようなオプションや機能があるかを確認します。各機能の詳細は、「デバイス設定ウィンドウ」を参照してください。
5. スキャン時に使用する機能に応じて適切なタブを選択します。
6. 各タブで、スキャナーに実行させる適切なオプションや機能を選択します。
7. 設定が完了したら、[ホーム] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] をクリックして [ショートカット] への設定内容を保存します。

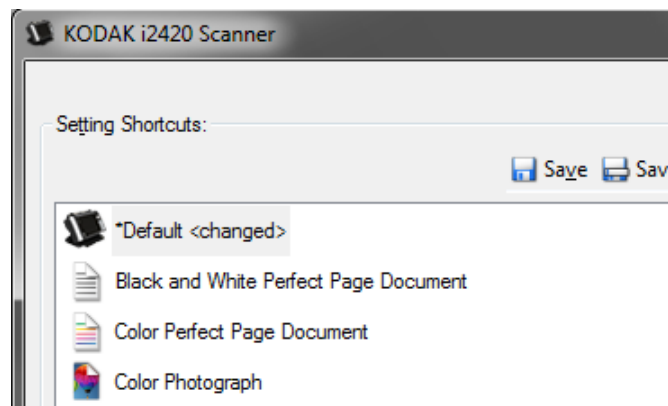
スキャナーメイン ウィンドウ

スキャナーメインウィンドウはスキャナーのユーザインターフェイスのホームウィンドウです。[設定のショートカット]、[OK] / [スキャン]の順に選択するだけでスキャンできます。



[設定のショートカット]— 現在定義されている設定のショートカットが一覧表示されます。次のショートカットが用意されています。

- デフォルト — スキャナーのデフォルト設定
- 白黒パーフェクトページ
- カラーパーフェクトページ
- カラー写真
- [設定のショートカット]の内容を変更して変更を保存していない場合、[設定のショートカット]に<変更済み>というテキストが付き、名前が斜体で表示されます（例：*デフォルト<変更済み>）。



入力ドキュメントのタイプ — ドキュメントのどちらの面のイメージを出力するかを選択できます。

- **両面**：原稿の両面をスキャンします。
- **片面 - 表**：原稿の表面をスキャンします。
- **片面 - 裏**：原稿の裏面をスキャンします。

注：

- スキャンする原稿は表面を伏せて入力トレイにセットしてください。
- **[両面]** および **[片面 - 裏]** オプションは、両面スキャナーモデルのみ利用できます。

保存 — 選択した **[設定のショートカット]** に対して行った変更を保存します。これはユーザが作成したショートカットに対してのみ使用できます。

名前を付けて保存 — **[名前を付けて保存]** ウィンドウが表示され、現在の設定を新しい **[設定のショートカット]** として保存します。

削除 — 選択した **[設定のショートカット]** を削除します。この場合、確認を求めるメッセージが表示されます。これはユーザが作成したショートカットに対してのみ使用できます。

名前の変更 — **[設定のショートカット]** の名前を変更できる **[名前の変更]** ウィンドウを表示します。これはユーザが作成したショートカットに対してのみ使用できます。

リセット — 選択した **[設定のショートカット]** への変更を元に戻します。これはユーザが変更したショートカットに対してのみ使用できます（例：< 変更済み > というテキスト付きの斜体のショートカット）。

復元 — **[復元]** ウィンドウを表示して、予め用意されたショートカットに対して行った変更を元に戻すことができます。これは予め用意されたショートカットが変更または削除された場合のみ使用できます。

インポート — 別の **[設定のショートカット]** セットをインポートして、現在のすべてのショートカットを置換します。このオプションを選択すると、OS の **[ファイルを開く]** ウィンドウが表示され、インポートするショートカットセットのファイルを選択できます。

エクスポート — 現在のすべての設定のショートカットをショートカットセットにエクスポートします。このオプションを選択すると、OS の **[名前を付けて保存]** ウィンドウが表示され、ショートカットセットのファイル名を指定できます。

上に移動 — 選択した設定のショートカットを、リスト中の 1 つ上の場所に移動します。再度移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。

下に移動 — 選択した設定のショートカットを、リスト中の 1 つ下の場所に移動します。再度移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。

注：

- 削除、名前の変更、復元、インポート、エクスポートは、選択した設定のショートカットが変更中（例：名前が斜体で < 変更済み > が付いている）の場合には使用できません。
- [設定のショートカット] を移動すると、以降再び移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。
- 別の PC に設定のショートカットを転送する場合：転送したいショートカットがある PC から [エクスポート] を選択し、別の PC で [インポート] を選択します。
- 現在のショートカットセットに設定のショートカットを追加する場合：1) [インポート] を選択してショートカットセットをロードします；2) 新しい設定のショートカットを作成します；3) [エクスポート] を選択してショートカットセットを置き換え、同じ名前を使用して保存します。

設定 — [イメージ設定] ウィンドウで、選択した [設定のショートカット] を変更することができます。このウィンドウから、デバイス設定および診断ウィンドウにもアクセスできます。

プレビュー — スキャンを開始して、イメージ設定ウィンドウのプレビュー領域にスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

OK / スキャン — 選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注：このボタンが [OK] の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

キャンセル — 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

情報アイコン



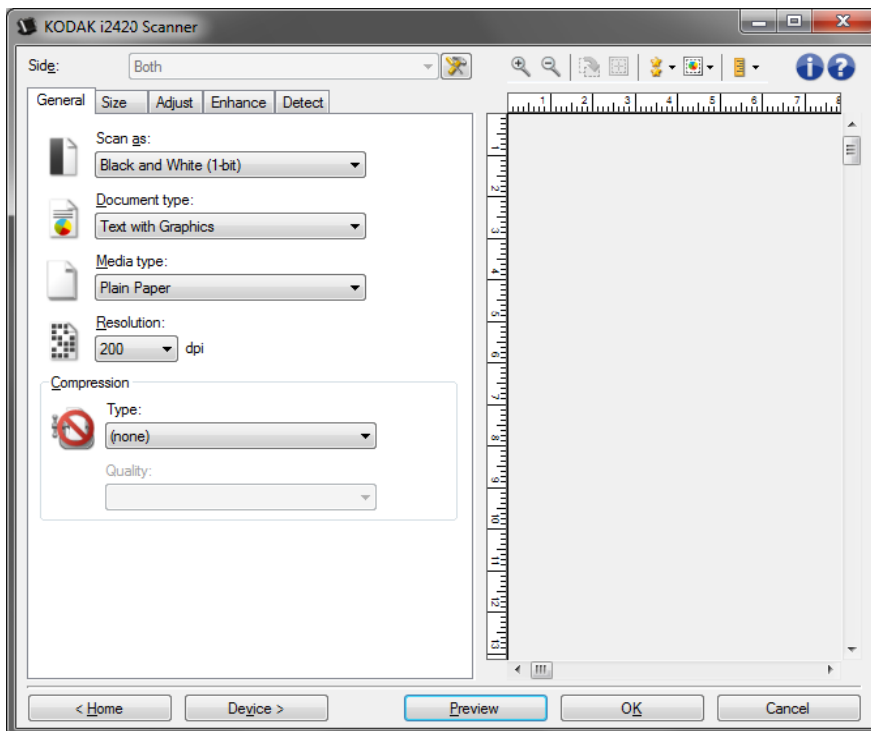
バージョン情報：スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。



ヘルプ：現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

イメージ設定ウィンドウ

このウィンドウから、利用可能なタブを使用してイメージ処理オプションを定義できます。イメージ設定に使用される値は、選択された設定のショートカットに保存されます。イメージ設定ウィンドウには [一般]、[サイズ]、[調整]、[拡張機能] の 4 つのタブがあります。



読取り面 — 設定する読取り面とイメージを選択できます（例：表面、裏面、両面：カラー（24 ビット）など）。すべてのイメージ設定は、選択されたイメージに適用されます。








注：

- [読取り面] オプションは、詳細設定が [詳細] タブで選択された場合のみ利用できます。
- [両面] および [裏面] オプションは、両面スキャナーモデルのみ利用できます。



詳細イメージセットアップ：[詳細] タブを表示します。

ツールバーボタン

	<p>ズームイン：プレビュー領域に現在表示されているイメージを拡大します。</p>
	<p>ズームアウト：プレビューウィンドウに現在表示されているイメージを縮小します。</p>
	<p>アウトラインを回転：アウトラインを 90 度回転します。 注：このオプションは、回転されたアウトラインがスキャナーの最大幅までに適合する場合のみ使用できます。</p>
	<p>アウトラインを中央に配置：アウトラインがスキャナーの最大幅の中央に配置されるように、アウトラインの X 原点を調整します。</p>
	<p>プレビューの品質：スキャン画像の表示品質を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 通常：イメージを低解像度で表示します。 • 高：実際のイメージにもっとも近い品質で表示します。このオプションを選択した場合、[プレビュー] ウィンドウに表示されるイメージは、最終的に出力されるイメージに近いものになります。 <p>注：原稿の内容に応じて、イメージが実際に近い表示ができる様、拡大表示が必要な場合があります。</p>
	<p>自動プレビュー更新：表示されるイメージの更新方法を選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オン：自動的に設定変更の結果を反映して表示されます。ほとんどの場合、原稿を再スキャンする必要はありません。再スキャンが必要な場合は、原稿を再スキャンするようメッセージが表示されます。 • オフ：再度プレビュースキャンを実行するまで表示されるイメージは更新されません。
	<p>単位：スキャナーの測定値の単位を選択します。これには、プレビューウィンドウとサイズ関連オプションが含まれます。[単位] オプションは、[インチ]、[センチメートル]、[ピクセル] が使用できます。</p>

プレビューウィンドウ

プレビュー領域ウィンドウに表示されるイメージは、現在のショートカット設定に基づくサンプルです。プレビュースキャンの実行後に、このウィンドウにイメージが表示されます。

- **アウトライン**：[原稿：マニュアル指定]または[イメージ：ドキュメントの一部]を[サイズ]タブから選択すると、現在の[アウトライン]選択項目が表示されます。アウトラインがプレビューイメージと位置が合っていない場合は、マウスを使用してアウトラインのサイズと位置を調整できます。マウスのカーソルをアウトラインの回りで動かすとカーソルが変化し、マウスの左ボタンを押し続けるとアウトラインを変更できます。

- **移動**：カーソルをアウトライン内に置くと、アウトラインの位置を調整できます。
- **角**：グラフィックの四隅の1つにカーソルを置くと、2つの辺を同時に調整できます。



- **辺**：グラフィックの四辺の1つにカーソルを置くと、その辺を調整できます。



- **回転**：回転のグラフィックの上にマウスカーソルを置くと、アウトラインの角度を調整できます。

ホーム — スキャナーメインウィンドウに戻ります。

デバイス — [デバイス設定]ウィンドウを表示します。

プレビュー — スキャンを開始して、プレビューウィンドウにイメージを表示します。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づくサンプルです。

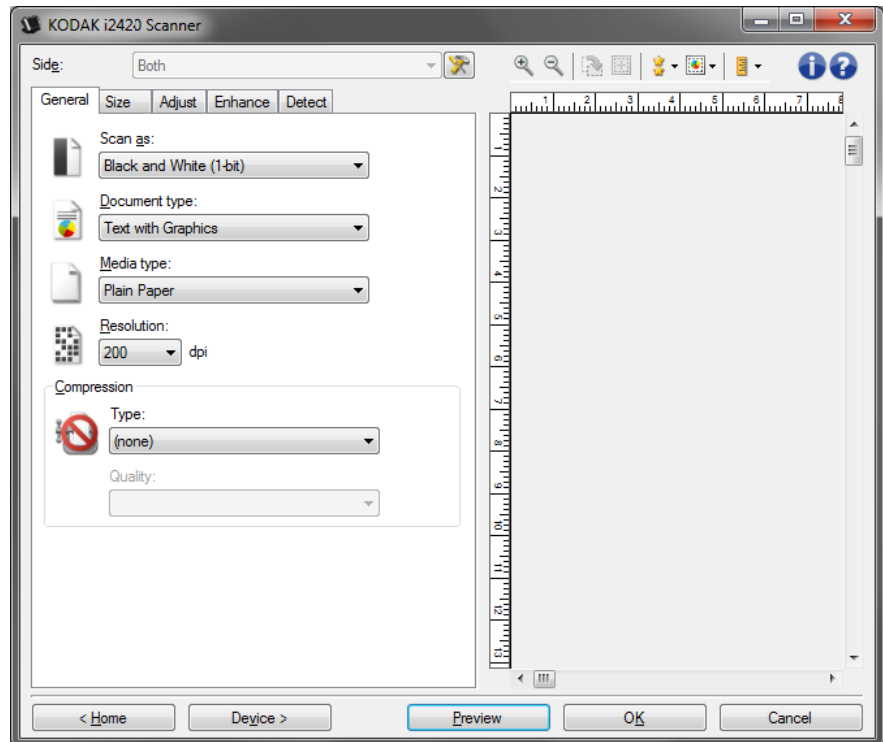
OK / スキャン — 選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注：このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

キャンセル — 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

[一般] タブ

[一般] タブには一般的に使用されるイメージオプションが用意されています。ほとんどの場合、他のタブのオプションを変更する必要はありません。



スキャン形式 — イメージのフォーマットを選択できます。

- **カラー (24 bit)** : カラーイメージを生成します。
- **グレースケール (8 ビット)** : グレースケールイメージを生成します。
- **白黒 (1 ビット)** : 白黒イメージを生成します。

注 : [スキャン形式] オプションは、[読取り面あたりのイメージ数 : 1] が [詳細] タブで選択されている場合にのみ使用できます。

ドキュメントのタイプ — 原稿の内容のタイプを選択します。

- **文字とグラフィックス** : 文書、グラフィック（棒グラフ、円グラフなど）、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **文字** : 文字原稿の場合に選択します。
- **写真** : 写真が主体の場合に選択します。

書類のタイプ — スキャンする用紙の素材や重量に基づいてタイプを選択します。オプションは、普通紙、薄紙、光沢紙、カードストック、雑誌です。

解像度 — 解像度 (dpi) を選択します。ここで指定した値によってイメージ品質が決まります。また、スキャン時間やイメージサイズにも影響します。解像度は 100、150、200、240、300、400、600、1200 dpi に設定できます。

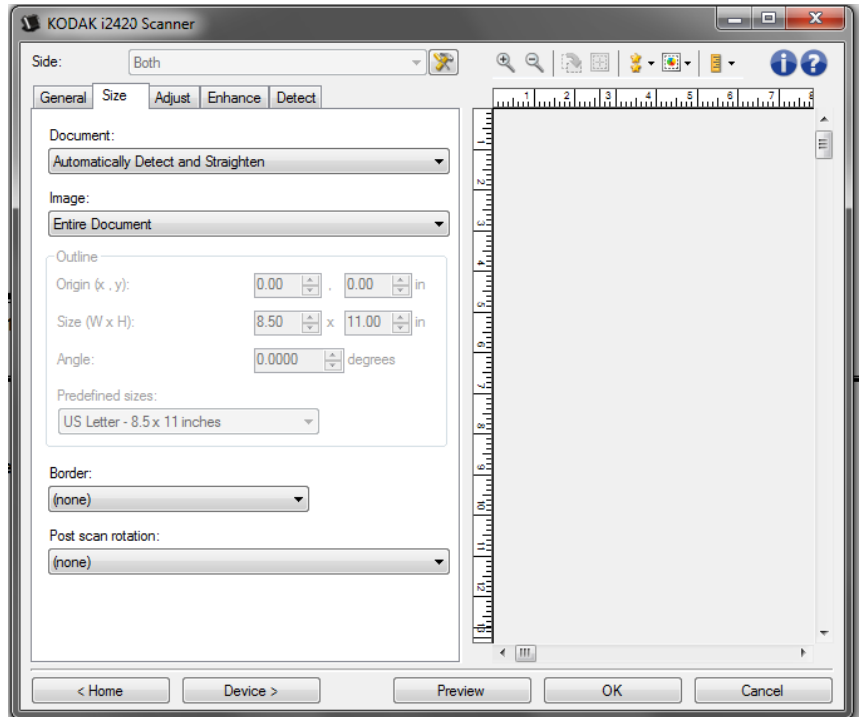
注 : このオプションは [プレビュー品質] が [標準] に設定されている場合は適用されません。

圧縮 — イメージのサイズを縮小できます。

- **タイプ** : 圧縮の種類を選択します。
 - **(なし)** : 圧縮しません。サイズの大きなイメージが生成されます。
 - **グループ-4** : 白黒イメージを圧縮する CCITT 標準を使用します。通常は、TIFF ファイルと組み合わせて利用されます。
 - **JPEG** : JPEG 技術を使って、カラー/グレースケールイメージを圧縮します。
- **品質** : JPEG 圧縮を選択した場合に、いずれかの品質オプションを選択します。このオプションはプレビューイメージには適用されません。
 - **ドラフト** : 圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
 - **標準** : 標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
 - **高** : 一部圧縮され、良い品質のイメージが生成されます。
 - **最高** : 小さい圧縮率で非常に良い品質のイメージが生成されます。
 - **高品質** : 最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。

[サイズ] タブ

[サイズ] タブでは、イメージの出力に関する値を定義できます(クロッピング値、用紙サイズなど)。



原稿 — スキャナーから搬送中の原稿を検知する方法を選択します。

- **自動検知／傾き修正**：各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知し、斜めに搬送された原稿の傾きを補整します。
- **自動検知**：各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知します。原稿が斜めに搬送されても、補正されません。
- **マニュアル指定**：[アウトライン] オプションで指定する領域に基づきイメージが返されます。同一サイズの原稿を含むスキャンジョブに対してのみこのオプションを使用してください。

イメージ — ドキュメントのどの部分をイメージの作成に使用するかを選択します。

- **ドキュメント全体**：[原稿：自動検知／傾き修正]、[原稿：自動検知]、または[原稿：マニュアル指定]を選択すると、ドキュメント全体がスキャン対象となります。
- **ドキュメントの一部**：[原稿：自動検知／傾き修正]を選択すると、[アウトライン]オプションで指定する原稿の一部を捕捉します。

アウトライン — イメージの作成に使用する位置とサイズを選択します。プレビューウィンドウにアウトラインが表示されます。

• **原点 (x, y) :**

- **[原稿 : 自動検知 / 傾き修正]** を選択すると、(x) は原稿の左端からの距離、(y) は原稿の上端からの距離になります。
- **[原稿 : マニュアル指定]** を選択すると、(x) はスキャナーの搬送路の左端からの距離、(y) はスキャナーで検知された原稿の先端からの距離になります。

• **サイズ (幅 x 高さ) :** **[原稿 : 自動検知 / 傾き修正]** または **[原稿 : マニュアル指定]** を選択すると、これがイメージの幅と高さになります。

注 : アウトラインがスキャンされた原稿の長さを超える場合、イメージは指定された長さよりも短くなる場合があります。

• **角度 :** アウトラインの角度を選択できます。

• **設定サイズ :** 一般的に使用される用紙サイズのリストが表示されます。このリストから項目を選択すると、自動的にアウトラインのサイズがその用紙のサイズに設定されます。アウトラインサイズがいずれのサイズとも一致しない場合、**[カスタム]** が表示されます。

注 : マウスを使用してプレビューウィンドウに表示されるアウトラインを調整することもできます。

外枠 — イメージ端の処理を選択できます。

• **(なし)**

• **追加 :** イメージの 4 辺に約 0.25 cm の黒枠が追加されます。

注 : このオプションは、**[原稿 : 自動検知]** および **[原稿 : マニュアル指定]** では使用できません。

• **削除 :** 外枠を削除して、原稿内側のイメージを生成します。外枠はドキュメントの端のばらつきによって発生します。たとえば、原稿が完全な四角形でない場合、または斜めに搬送された場合などです。

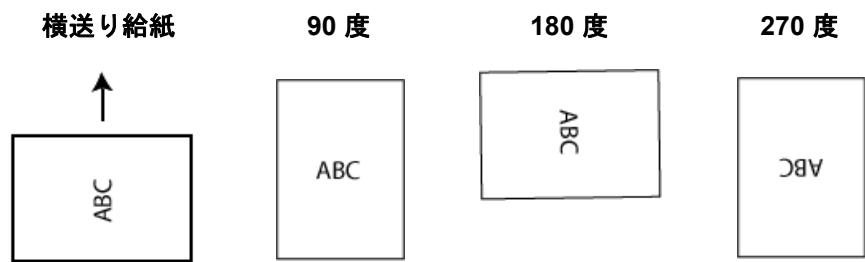
注 :

- このオプションで外枠の大部分が削除できなかった場合、若干の文書情報が失われる可能性があります。
- このオプションは **[原稿 : 自動検知 / 傾き修正]** および **[イメージ : ドキュメント全体]** がいずれも選択されている場合のみ使用できます。

スキャン後に回転オプション — スキャン後にイメージに適用される角度を選択できます。

- (なし)
- 自動：スキャナーが各原稿の文字方向を分析して、イメージを適正な方向に回転します。
- 90、180、270 度：回転する角度を指定します。

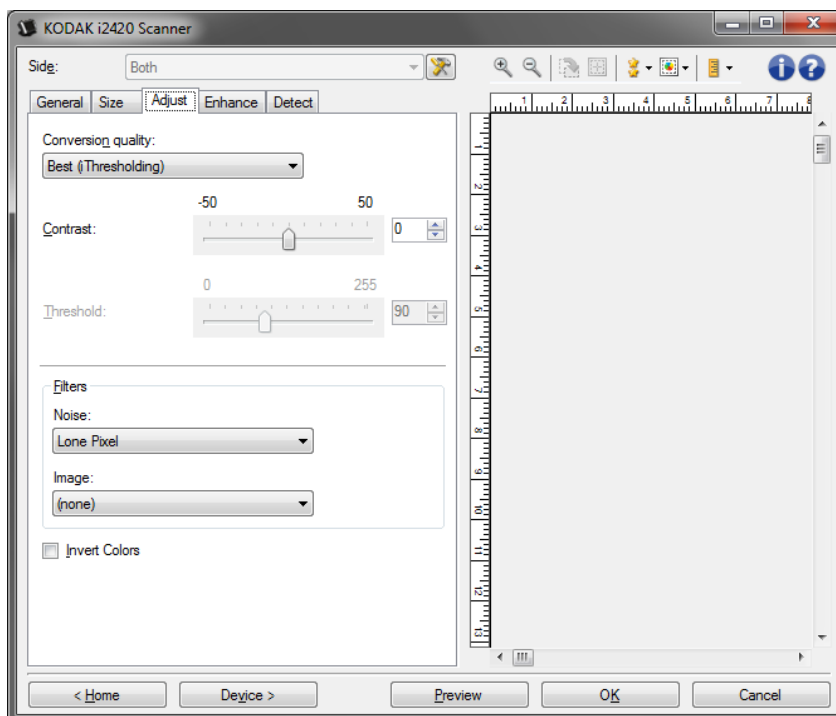
以下の例は、これらの設定が横方向にスキャンされた原稿にどのように影響するかを表します。



注：このオプションはプレビューイメージには適用されません。

【調整】タブ：白黒

【調整】タブで利用できるオプションは、【一般】タブの【スキャン形式】の選択項目により異なります。以下のオプションは、【スキャン形式】で【白黒】を選択した場合に基づきます。



変換時の品質 — これらの設定は、白黒イメージを生成するために使用する、グレースケール原稿の解析方法に影響します。

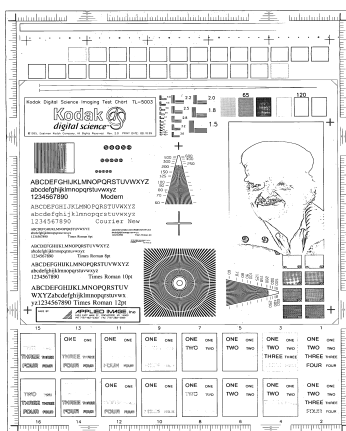
- **最高 (Intelligent QC)** : ベスト解析に加え、Intelligent QC (品質管理) も実行されます。設定が困難な原稿のイメージがグレースケールで生成され、ご使用のアプリケーションソフトウェアで画質を最終的に決定することができます。
- **最高 (iThresholding)** : 高品質のイメージを生成するために、書類を自動的に識別して、最適なしきい値 (スレッシュホールド) が決定されます。単一の設定では画質が異なる書類 (文字のかすれ、暗い背景、カラーの背景など) を混在スキャンすることができます。
- **通常 (ATP)** : 目的の画質を生成するための最適な設定を選択できます。このオプションは単一の設定で原稿をスキャンする際に最適です。また、【最高】選択時に目標とする画質の【コントラスト】設定が見つからない場合など、異なる設定の書類をスキャンする場合にもこの設定を使用できます。
- **ドラフト (固定)** : ピクセルが白か黒かを判断するために使用するグレースケールのしきい値を選択します。このオプションは、コントラストの高い書類に最適です。

コントラスト — イメージをより鮮明にまたはソフトにします。この設定値を小さくすると、イメージがやわらかくなり、イメージ中のノイズが除去されます。この設定値を大きくすると、イメージがより鮮明になり、薄いイメージがわかりやすくなります。オプションの範囲は、[-50] から [50] です。デフォルト値は 0 です。

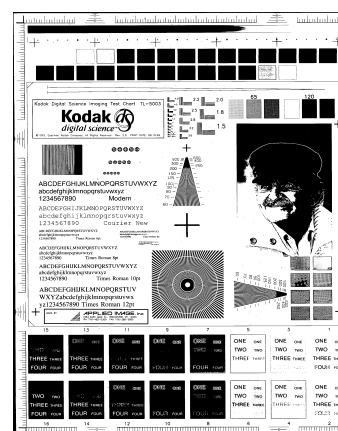
注：[変換時の品質：最高] および [変換時の品質：通常] の場合のみ使用できます。

スレッシュホールド — ピクセルを黒または白と認識するレベルを設定します (1 ビット/ピクセル)。この設定値を小さくすると、イメージがより薄くなり、背景を抑えることができます。この設定値を大きくすると、イメージが濃くなります。また、薄いイメージを取り込みやすくなります。オプションの範囲は、[0] から [255] です。デフォルト値は 90 です。

注：[変換時の品質：最高] および [変換時の品質：通常] の場合のみ使用できます。



スレッシュホールド : 50



スレッシュホールド : 127

フィルタ

• ノイズ

- (なし) : ノイズフィルタを実行しません。
- **孤立点除去** : 白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
- **マジョリティールール** : 各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺全域ピクセルの多数が白の場合白になり、黒の場合は黒になります。

• イメージ

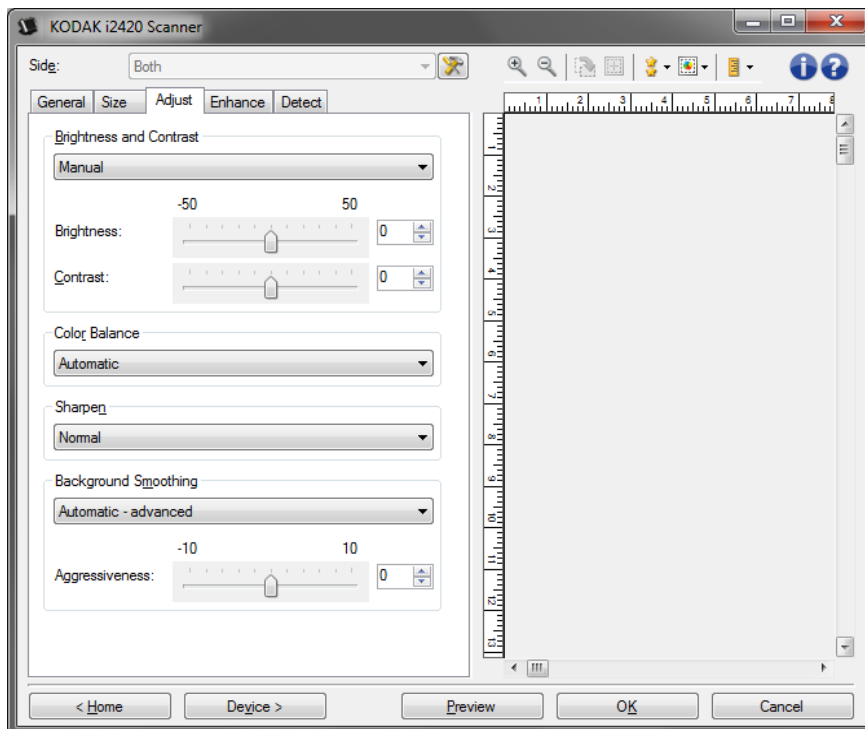
- (なし) : イメージフィルタを実行しません。
- **ハーフトーン除去** : ハーフトーンスクリーンを使ったドットマトリックステキストやイメージ (新聞の写真など) の見栄えを良くします。

反転 — 黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションを有効にします。

[調整] タブ：カラー／グレースケール

[調整] タブで利用できるオプションは、[一般] タブの [スキャン形式] の選択項目により異なります。以下のオプションは、[スキャン形式] で [カラー] または [グレースケール] を選択した場合に基づきます。

注：ほとんどのオプションには、追加設定があります。追加設定は、オプションが選択された場合のみ表示されます。設定が画面に収まりきれない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。



明度コントラスト

- (なし)：オプションを実行しません。
- 自動：各イメージを自動的に調整します。
- 手動：すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
 - 明度 - カラー／グレースケールイメージ中の白のレベルを調整します。値の範囲は、[-50] から [50] です。
 - コントラスト - イメージをシャープに、またはソフトにします。値の範囲は、[-50] から [50] です。

カラーバランス

- (なし) : オプションを実行しません。
- **自動** : 各原稿の白い背景を純白に調整します。このオプションを使用すると、用紙ごとの厚さやブランドの違いによる白の差異を補うことができます。このオプションは写真に対して使用しないことを推奨します。
- **自動 - 詳細** : 自動オプションの詳細を設定したい場合に使用します。
 - **強度** - 差異の度合いを調整できます。値を大きくすることで、古くなり黄ばんだ原稿に対応することができます。値の範囲は、[-2] から [2] です。
- **手動** : すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
 - **赤** - カラーイメージ中の赤のレベルを調整します。値の範囲は、[-50] から [50] です。
 - **青** - カラーイメージ中の青色のレベルを調整します。値の範囲は、[-50] から [50] です。
 - **緑** - カラーイメージ中の緑色のレベルを調整します。値の範囲は、[-50] から [50] です。

注 : カラーバランスはグレースケールイメージでは無効です。

シャープネス — イメージのエッジコントラストを増やします。

- (なし) : オプションを実行しません。
- **通常**
- **高**
- **強調**

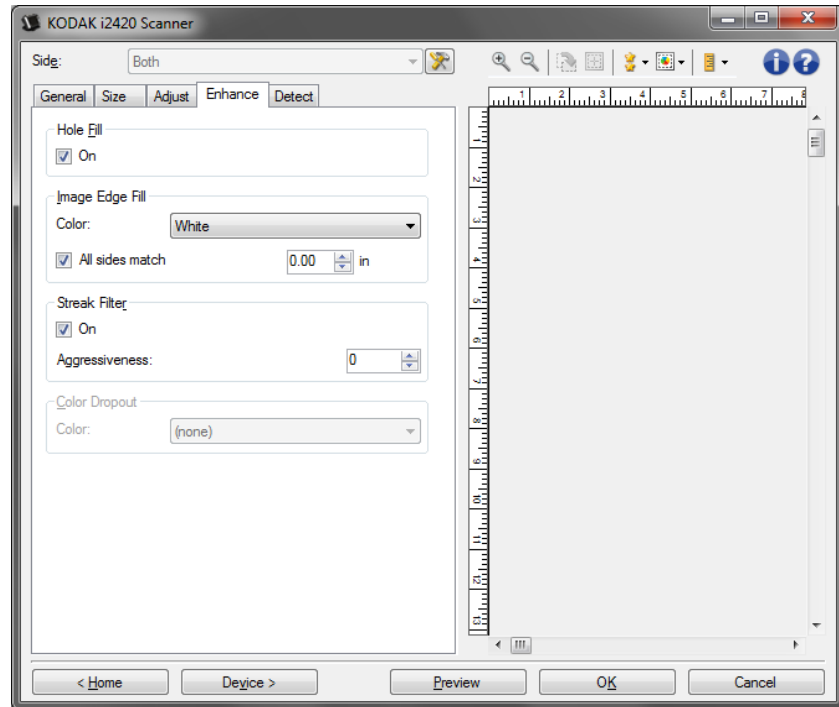
背景のスモーキング — 背景色のある原稿やフォームをスキャンする場合にこのオプションを使用すると、イメージの背景色を均一にします。このオプションを利用すると、イメージ品質を向上しながら、ファイルサイズを軽減できます。

- (なし) : オプションを実行しません。
- **自動** : 背景色を 3 色までスモーキングします。
- **自動 - 詳細** : 自動オプションの詳細を設定したい上級者向け。
 - **強度** - スモーキングの強弱を決定できます。値の範囲は、[-10] から [10] です。

[拡張機能] タブ

[拡張機能] タブのオプションは、[一般] タブの [スキャン形式] の選択項目により異なります。

注：ほとんどのオプションには、追加設定があります。これらの設定は、オプションが選択された場合のみ表示されます。設定が画面に収まりきれない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。



パンチ穴除去 — 原稿の端の周囲にある穴を埋めることができます。埋められる穴のタイプは、丸、長方形、不定形（例、二重穴が開いている、またはバインダーから原稿を取り外した際に発生した多少の裂け目など）です。チェックをオンにするとパンチ穴除去機能が有効になります。

イメージの端を埋める — 最終的に出力されるイメージの端の領域を、選択された色で埋めます。

- **カラー：**
 - (なし)：オプションを実行しません。
 - 自動：イメージの端が周囲の色で自動的に埋められます。
 - 自動 - 破れを含める：イメージ端埋めに加え、イメージの端の破れも補完されます。
 - 白：イメージの端が白色で埋められます。
 - 黒：イメージの端が黒色で埋められます。
- **フレーム設定**：このオプションをオンにすると、4 辺が等しく埋められます。このオプションは白黒に対してのみ使用できます。
- **上**：上端を埋める量を決定します。
- **左/右**：左のオプションは、左端を埋める量を、右のオプションは右端を埋める量を決定します。
- **下**：下端を埋める量を決定します。

注：

- [上]、[左/右]、[下]の各オプションは、[フレーム設定]が有効になっている場合は使用できません。

縦縞フィルタ — イメージから縦縞をフィルタするようにスキャナーを設定できます。縦縞とは、原稿上には存在しないにもかかわらず、イメージに現れることがある線のことです。縦縞は、原稿上の汚れ、塵、擦り切れた端などが原因で発生するか、スキャナーの推奨清掃手順に従わなかったために発生する場合があります。

- **ON**：縦縞フィルタ機能を使用します。
- **強度**：縦縞をフィルタの強弱を調整します。値の範囲は、[-2] から [2] です。デフォルト値は 0 です。

カラードロップアウト — フォームの背景を除去するために使用します。背景が除去されると入力されたデータのみがイメージとして保存されます（フォームの線とボックスを削除）。白黒イメージの場合、スキャナーがイメージの生成のために解析するグレースケールイメージは、設定に影響を受けます。

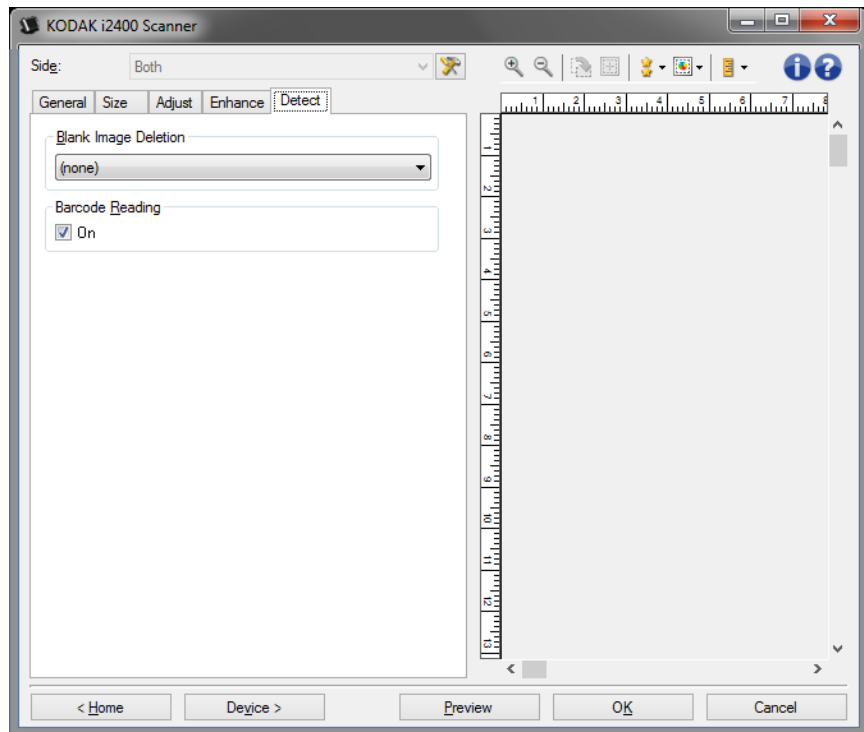
カラー

- (なし)：オプションを実行しません。
- **マルチ**：濃い色合い（例、黒または濃い青インク）以外のカラードロップアウトを実行します。
- **主色**：メインの色をドロップアウトします。
- **赤**：赤色をドロップアウトします。
- **緑**：緑色をドロップアウトします。
- **青**：青色をドロップアウトします。
- **強度**：強弱を調整してドロップアウトします。値の範囲は、[-10] から [10] です。デフォルト値は 0 です。このオプションは、[カラー]が[マルチ]または[主色]に設定されている場合のみ使用できます。


注：[カラードロップアウト]オプションは、[スキャン方法]で[白黒]または[グレースケール]が選択されている場合にのみ利用できます。

[検知] タブ

[検知] タブには、以下のオプションがあります。



白紙イメージの削除 — スキャンアプリケーションに白紙のイメージが取り込まれないように設定できます。

- **(なし)** : すべてのイメージがスキャンアプリケーションに送信されます。
 - **文字量基準** : イメージ内の原稿内容に基づきイメージが白紙であるかどうか判断されます。
 - **文字量** : スキャナーが白紙であると判断する内容の最大量を設定できます。内容量がこの値以上のイメージは白紙でないと判断されると、スキャンアプリケーションへ送信されます。値の範囲は、[0] から [100] です。
 -  : **[文字量基準]** はプレビューによってイメージの内容量が入力されます。一般的な白紙原稿（レターヘッド付きの白紙原稿など）があれば、内容量を設定する際に参考になります（必要に応じてプレビュースキャン、このボタンのクリック、内容サイズの調整などを実行します）。
- 注 : このオプションはプレビューイメージがある場合のみ使用できます。

- **ファイル容量基準**：(他のすべての設定が適用された後) スキャンアプリケーションに送信するイメージのサイズに基づいて、白紙であるかどうか判断されます。

- **ファイル容量**：スキャナーが白紙でないと判断するイメージの最小サイズを選択できます。サイズがこの値以下のイメージは白紙と判断され、スキャンアプリケーションへ送信されません。値の範囲は、1 ~ 1000 KB (1 KB は 1024 バイト) です。

バーコード — スキャナーがバーコードの画像を検索するように設定できます。スキャナーは各イメージを検索し、最初に検出したバーコードをデコードし、その情報をスキャンアプリケーションに返します。

以下のバーコードを検出できます。

Interleaved 2 of 5

Code 3 of 9

Code 128

Codabar

UPC-A

UPC-E

EAN-13

EAN-8

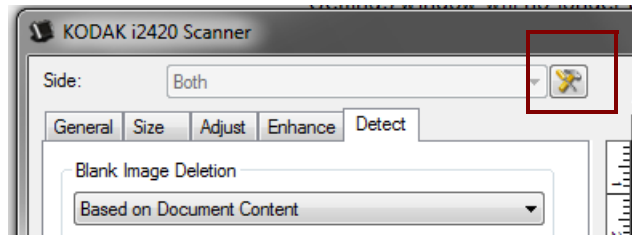
PDF417

- **[オン]**：バーコード検出をオンにします。

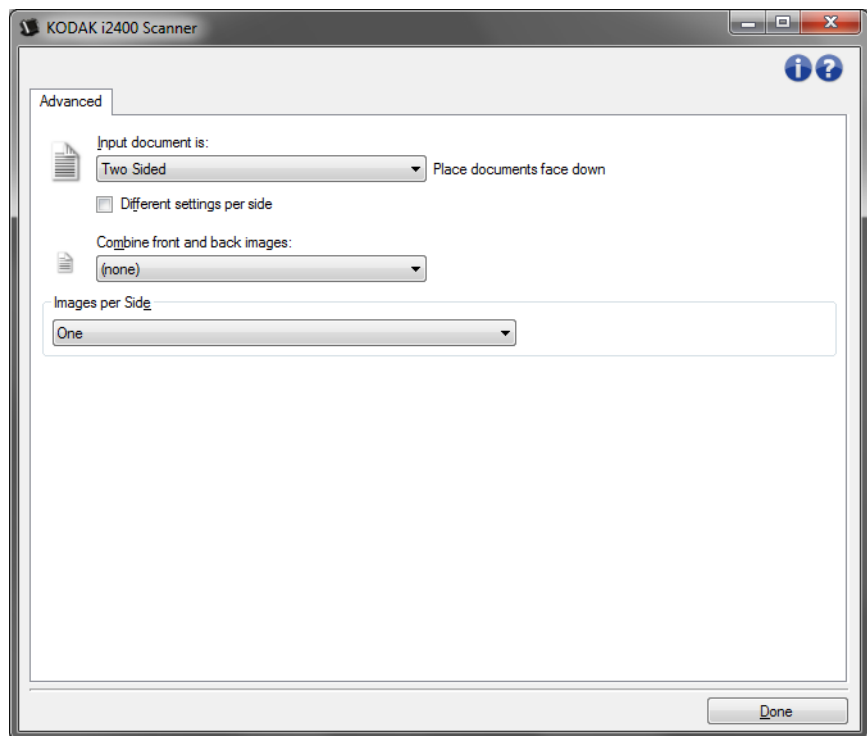
詳細イメージセットアップ

[詳細]タブ

[イメージの詳細設定]アイコンは、イメージ設定ウィンドウの上部にある、[読み取り面]ドロップダウンボックスの隣にあります。



[詳細イメージセットアップ]アイコンを選択すると、[詳細]タブが表示されます。



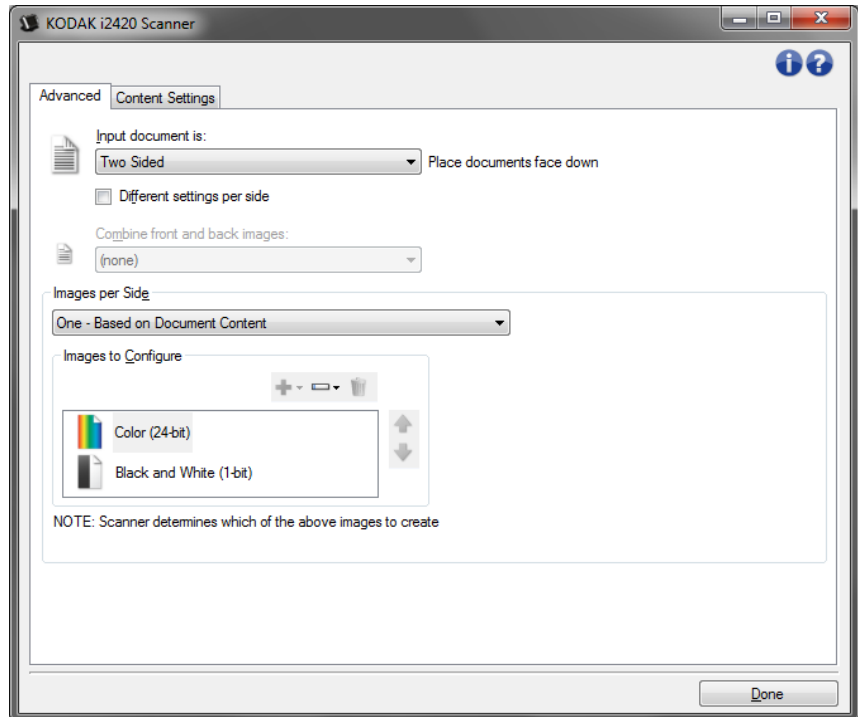
入カドキュメントのタイプ — 設定する面に応じて、[両面]、[片面 - 表]、または [片面 - 裏] を選択します。

注：[両面] および [片面 - 裏] オプションは、両面スキャナーモデルのみ使用できます。

読み取り面ごとに設定を変える — デフォルトでは、選択した設定内容が両面のイメージに適用されます。スキャン対象原稿のそれぞれの面に異なるイメージ処理設定を適用する場合に、このオプションを選択します。たとえば表面をカラー、裏面を白黒にしたい場合は、まず [入カドキュメントのタイプ] ドロップダウンリストから [両面] オプションを選択し、次に [読み取り面ごとに設定を変える] のチェックボックスを選択します。

この操作を行うと、[イメージ設定] ウィンドウにある [読取り面] ドロップダウンリストが有効になり、読取り面ごとに異なる設定を選択することができます。[読取り面ごとに設定を変える] を有効にしているため、最初の選択内容はスキャン対象ドキュメントの表面のみ適用されます。表面に関するオプションを選択し終わったら、[読取り面] ドロップダウンリストから裏面を選択し、裏面に適用するオプションを設定していきます。

注：[読取り面ごとに設定を変える] オプションは、両面スキャナーモデルのみ有効です。



表面 / 裏面画像の結合 — 両面の各イメージを1つにしたイメージを作成する場合に使用します。このオプションを有効にすると、原稿の表面と裏面を1つのイメージに結合します。オプションは以下のとおりです。

表面

裏面

裏面

表面

表面を上：表面のイメージが裏面のイメージの上に配置されます。

表面を下：裏面のイメージが表面のイメージの上に配置されます。

表面 裏面

裏面 表面

表面を左：表面のイメージが裏面のイメージの左に配置されます。

表面を右：裏面のイメージが表面のイメージの左に配置されます。

注：

- このオプションは両面スキャナーモデルのみ使用できます。
- このオプションが使用できるのは、[入力ドキュメントのタイプ]が[両面]に設定されており、[読取り面ごとに設定を変更]が選択されておらず、[読取り面あたりのイメージ数]が[1]に設定されており、ドキュメントフィーダからスキャンが実行された場合に限られます。
- このオプションはプレビューイメージには適用されません。

読取り面あたりのイメージ数 — イメージ処理する選択項目に基づいて、読取り面あたりに作成するイメージの数を示します。

- 1：1つのイメージが作成されます。
- 1 - 自動カラー検知：原稿によってカラー／グレースケールまたは白黒のいずれかを自動的に検知します。このオプションはプレビューイメージには適用されません。
- マルチ：複数イメージが作成されます。

注：[読取り面あたりのイメージ数]オプションから[1 - 自動カラー検知]を選択すると、[原稿内容の設定]タブが表示されます。

設定するイメージ — 設定するイメージを示します。

注：[読取り面あたりのイメージ数]オプションから[1]以外の項目を選択している場合のみ、このオプションを使用できます。詳細オプションの設定方法は、次のセクションを参照してください。

- 例1：書類の色量を基にカラー／グレースケールと白黒スキャンを切替え
- 例2：書類の各面に対して複数イメージを作成
- 例3：書類の両面にそれぞれ異なる設定を使用

スキャナーからスキャンアプリケーションにイメージを送る順番は、上矢印と下矢印で選択します。

ツールバーボタン：



追加：設定リストの一番下にイメージを追加します。



変更：現在選択されているイメージの種類を変更します。

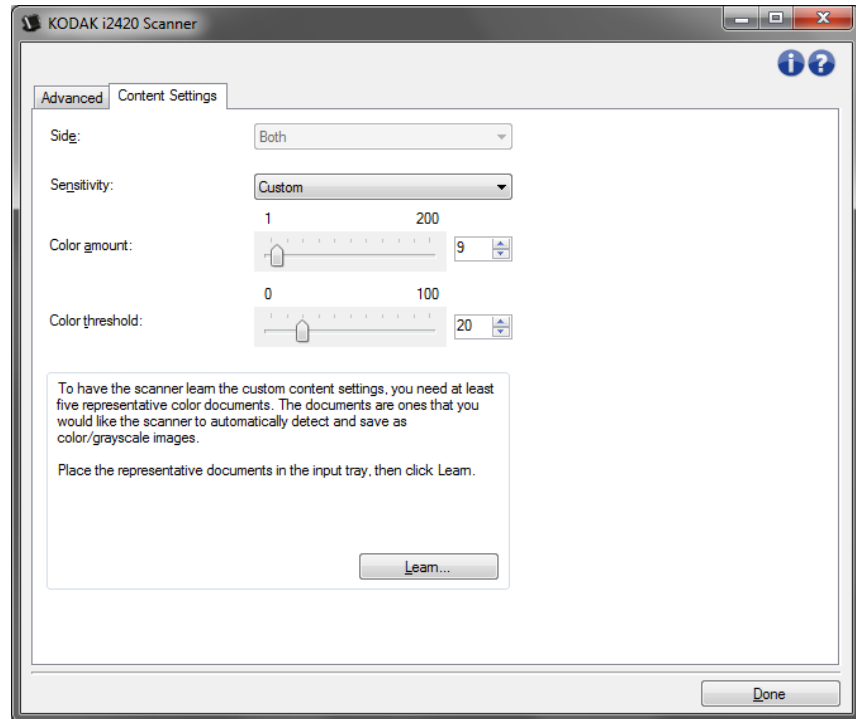


削除：選択したイメージの種類を削除します。

完了 — [イメージ設定] ウィンドウに戻ります。

[原稿内容の設定] タブ

[原稿内容の設定] タブのオプションは、片面または両面ジョブに使用できます。



読取り面 — [感度] の設定を適用する面を指定します。このオプションは、[詳細] タブで [読取り面ごとに設定を変える] が選択されている場合のみ使用できます。

感度

- **低**：カラー／グレースケールイメージとして保存する場合に、スキャンする原稿の色の量が少ない場合に選択します。黒い文字と小さなロゴが主体の原稿や、マーカの量や写真の色が少ない原稿をスキャンする場合に適します。
- **中**：カラー／グレースケールイメージとして保存する場合に、[低] オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。
- **高**：カラー／グレースケールイメージとして保存する場合に、[中] オプションよりも、色の割合が多い場合に選択します。中～大規模のカラー写真などを多用している原稿に適します。中間色の割合が大きい写真を正しくスキャンするには、[カラーレスショルド] や [色量] 値の調整が必要になる場合があります。

- **カスタム**：マニュアルで **[色量]** や **[カラーズレッシュョルド]** の値を調整することができます。

注：**[感度]** の値を設定する場合は、まず **[中]** オプションを選択してから、通常のスキャン作業でテストしてみることをお勧めします。白黒と比較して原稿の大半がカラー／グレースケールとして返された場合は、**[高]** に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。白黒と比較してカラー／グレースケールとして返された原稿が少なすぎる場合には、**[低]** に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。以上のオプションで満足のいく結果が得られなかった場合は、**[カスタム]** を選択してマニュアルで **[色量]** や **[カラーズレッシュョルド]** を調整してください。**[カスタム]** を選択した場合、**[自動設定]** モードを使ってスキャナーに原稿を分析させ、推奨する設定値を算出させることもできます。

色量 — 原稿をカラー／グレースケールで保存する際に、原稿中に最低限必要なカラーの量です。**[色量]** の値を増やすと、必要とされるカラーピクセルの量も増加します。有効値は **1 ~ 200** です。

カラーズレッシュョルド — 色量の算出時に特定の色を含めるための、カラーズレッシュョルドまたは彩度（薄青と紺色の対比など）。値を増やすと、必要とされる彩度が高くなります。有効値は **0 ~ 100** です。

自動設定 — スキャンしたサンプルのカラー原稿に基づいて設定値を算出します。**[自動設定]** を選択する前に、入カトレイに 5 枚以上のカラー原稿をセットしてください。これらの原稿をスキャン、分析して推奨される **[色量]** が決定します。

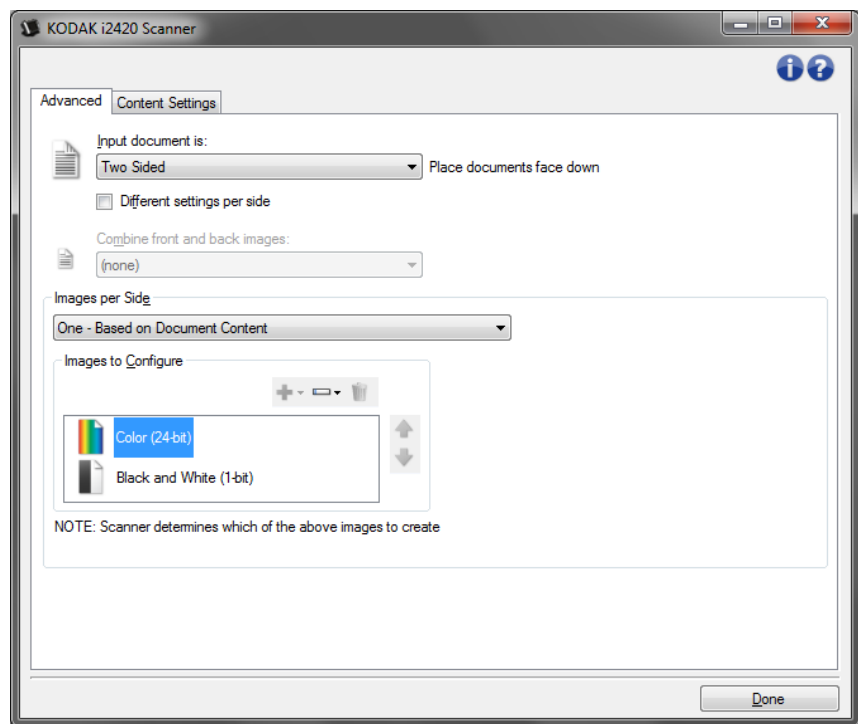
計算に応じて **[色量]** と **[カラーズレッシュョルド]** の値が自動的に調整されます。算出された値を使っても期待通りの結果にならない場合は、**[カラーズレッシュョルド]** の値をマニュアルで調整してください。

例 1：書類の色量を基にカラー／グレースケールと白黒スキャンを切替え

この例では、両面に情報が印刷されたカラーと白黒原稿が混在するスキャンセッションを設定します。また、スキャンで原稿がカラーか白黒かを判断し、それに基づきカラーまたは白黒イメージが出力します。

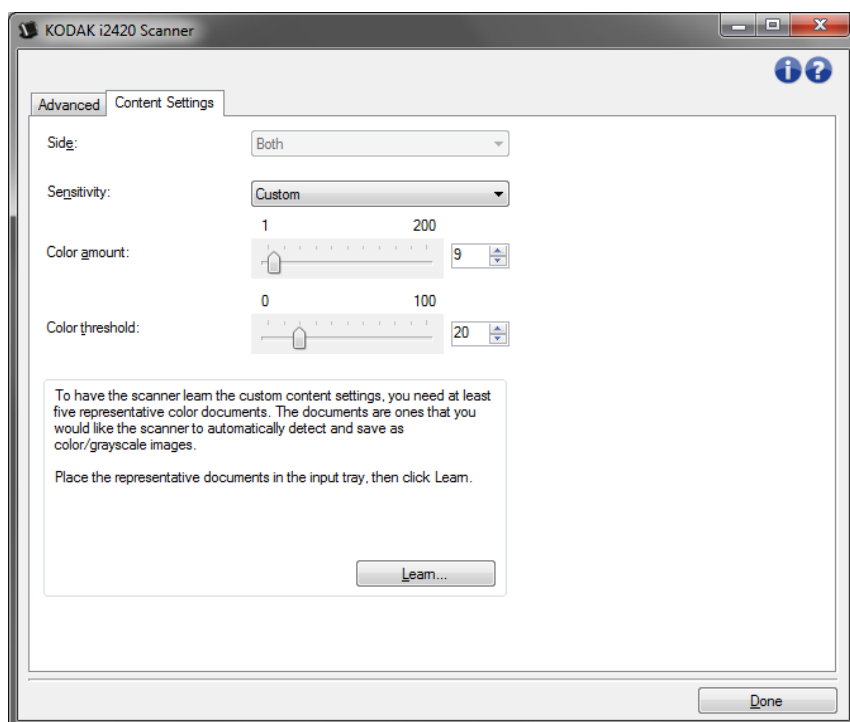
1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の **[設定のショートカット]** を選択します。
2. **[設定]** を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. イメージ設定ウィンドウの **[詳細イメージセットアップ]** アイコンを選択すると、**[詳細]** タブが表示されます。
4. **[入カドキュメントのタイプ：両面]** を選択します。
5. **[読取り面あたりのイメージ数：1 - 色量基準]** を選択します。

注： **[詳細]** タブに **[設定するイメージ]** が表示され、 **[カラー]**、 **[白黒]** イメージ項目が選択できます。 **[原稿内容の設定]** タブも表示されます。



6. カラー原稿として検出されたが、カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、次の処理を行います。
 - **[カラー (24 ビット)]** を選択します。
 - **[変更]** を選択してオプションのリストを表示します。
 - **[グレースケール]** を選択します。

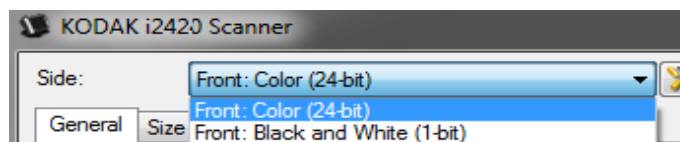
7. [原稿内容の設定] タブに移動します。



8. [感度] オプションを選択します。

9. [完了] をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

注：[読取り面] オプションで、[両面：白黒 (1 bit)] および [両面：カラー (24 bit)] を選択します。



10. 読取り面から [両面：カラー (24 bit)]。

注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブと、カラーイメージ設定の設定項目を調整します。

11. 読取り面から [両面：白黒 (1 ビット)] を選択します。

注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、白黒イメージ設定の設定項目を調整します。

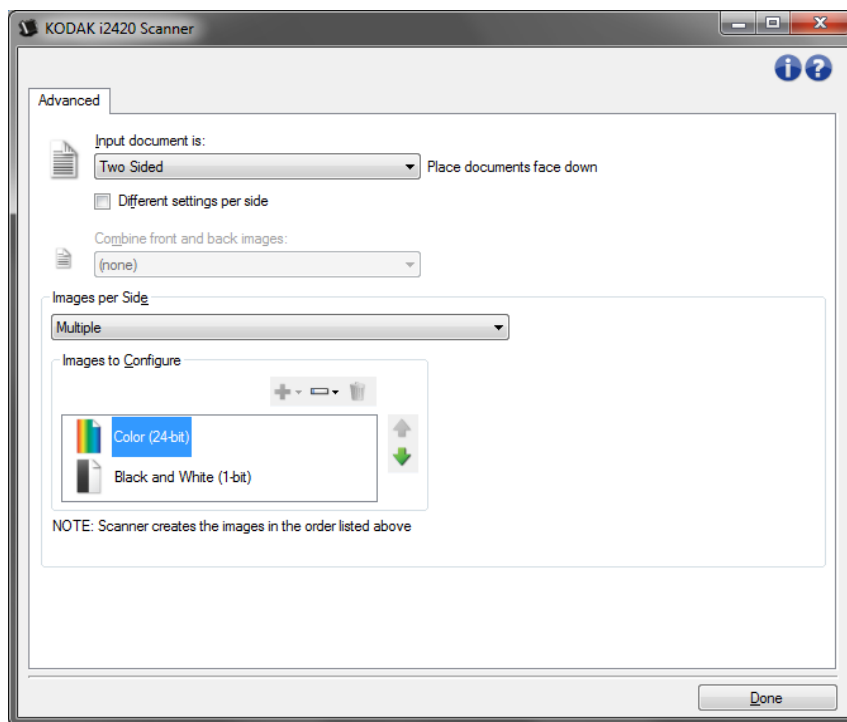
12. 設定が完了したら、[ホーム] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

例 2：書類の各面に対して複数イメージを作成

この例では、両面に情報が印刷されている原稿のスキャンを想定し、原稿の各面に対してカラーと白黒イメージの両方を出力します。

1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の **[設定のショートカット]** を選択します。
2. **[設定]** を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. イメージ設定ウィンドウの **[詳細イメージセットアップ]** アイコンを選択すると、**[詳細]** タブが表示されます。
4. **[入カドキュメントのタイプ：両面]** を選択します。
5. **[読取り面あたりのイメージ数：マルチ]** を選択します。

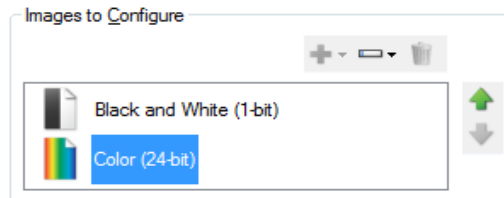
注：[詳細] タブに **[設定するイメージ]** が表示され、**[カラー]**、**[白黒]** イメージ項目があります。



6. カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、次の処理を行います。
 - **[カラー (24 ビット)]** を選択します。
 - **[変更]** を選択してオプションのリストを表示します。
 - **[グレースケール]** を選択します。

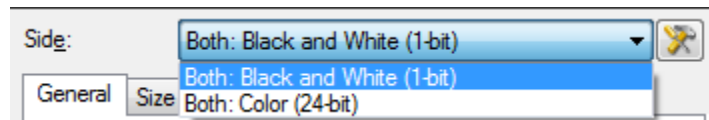
7. デフォルトでは、最初にリストされたイメージ（この例では白黒）がスキャンアプリケーションに送信され、次に2番目にリストされたイメージ（この例ではカラー／グレースケール）が送信されます。カラー／グレースケールイメージを先に生成して送信したい場合、次の手順に従います。

- [カラー（24ビット）]を選択します。
- [上に移動]を選択して、カラー／グレースケールイメージをリストの上にセットします。



8. [完了]をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

注：[読取り面]オプションで、[両面：カラー（24ビット）]、と[両面：白黒（1ビット）]が選択できます。



9. 読取り面から[両面：カラー（24ビット）]を選択します。

注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブと、カラーイメージの設定項目を調整します。

10. 読取り面から[両面：白黒（1ビット）]を選択します。

注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブと、白黒イメージの設定項目を調整します。

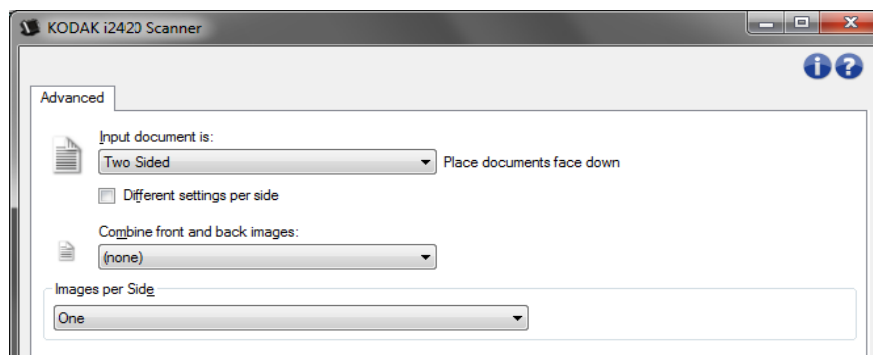
11. 設定が完了したら、[ホーム]を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存]を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

例 3 : 書類の両面にそれぞれ異なる設定を使用

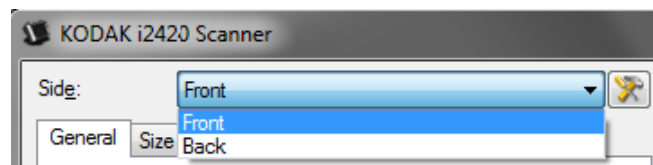
この例では、表面カラー、裏面白黒で原稿をスキャンする設定を行います。

注：このオプションは両面スキャナーのみ使用できます。

1. [詳細] タブを開いていない場合、次の手順で設定します。
 - スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の [設定のショートカット] を選択します。
 - [設定] を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
 - イメージ設定ウィンドウの [詳細イメージセットアップ] アイコンを選択すると、[詳細] タブが表示されます。
2. [入力ドキュメントのタイプ:] から [両面] を選択します。
3. [読取り面ごとに設定を変更] オプションを選択します。
4. [読取り面あたりのイメージ数:] から [1] を選択します。



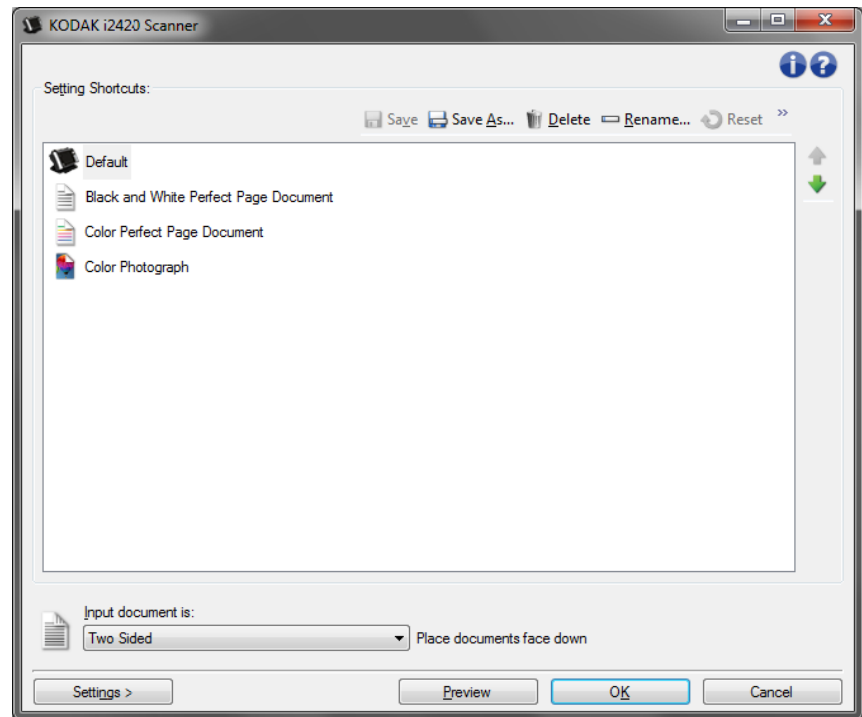
5. [完了] をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。
注：[読取り面] オプションで、[表] と [裏] の 2 つの項目が表示されます。



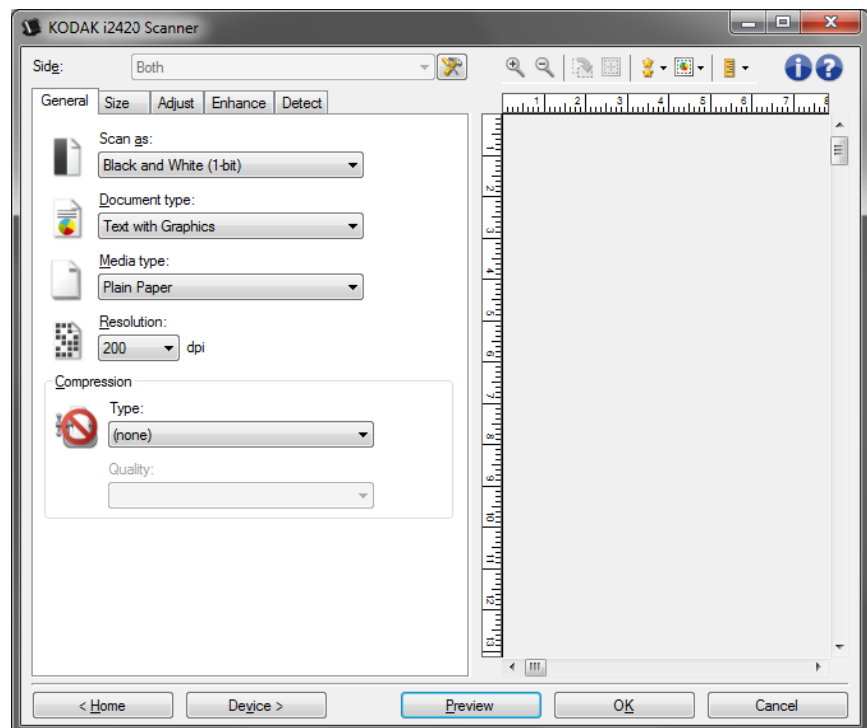
6. 読取り面から [表] を選択します。
7. [一般] タブの [スキャン形式] オプションで、[カラー (24 ビット)] を選択します。
注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、裏面の設定項目を調整します。
8. 読取り面から [裏] を選択します。
9. [一般] タブの [スキャン形式] オプションで、[白黒 (1 bit)] を選択します。
注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、裏面の設定項目を調整します。
10. 設定が完了したら、[ホーム] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへ設定内容を保存します。

新しい設定のショートカットの作成

1. スキャナーメインウィンドウのリストから、設定のショートカットを選択します。目的のイメージ出力に最適なショートカットを選択します。



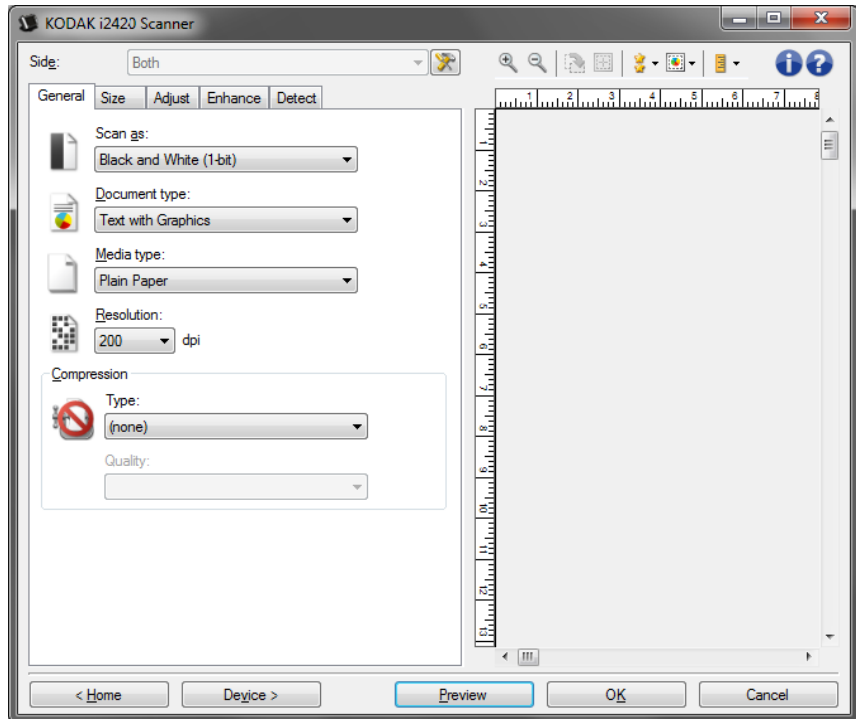
2. [入カドキュメントのタイプ] フィールドから、原稿の表面、裏面、または両面のいずれかを選択します。
3. スキャナーメインウィンドウで [設定] を選択します。イメージ設定ウィンドウの [一般] タブが表示されます。



4. [一般] タブで適切なオプションを選択します。
注：必要な場合は、他のタブで各設定を確認し、変更します。
5. スキャナーの入カトレイに原稿を 1 枚セットします。
6. どのようにイメージがスキャンされるかを確認するには、[プレビュー] をクリックします。
注：表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別のショートカットを利用して設定を変更するか、イメージ設定ウィンドウの他のタブで設定内容を更に調整します。
7. イメージ設定ウィンドウの [デバイス] を選択して目的のデバイス設定を定義し、デバイス設定ウィンドウを表示します。
8. 各タブで、スキャナーに実行させる適切なオプションを選択します。
9. [ホーム] をクリックしてスキャナーメインウィンドウに戻ります。
10. [名前を付けて保存] を選択して、名前を付けて保存ウィンドウを表示します。
11. 設定内容が分かり易い新しいショートカット名を入力して、[保存] をクリックします。

イメージ設定の変更

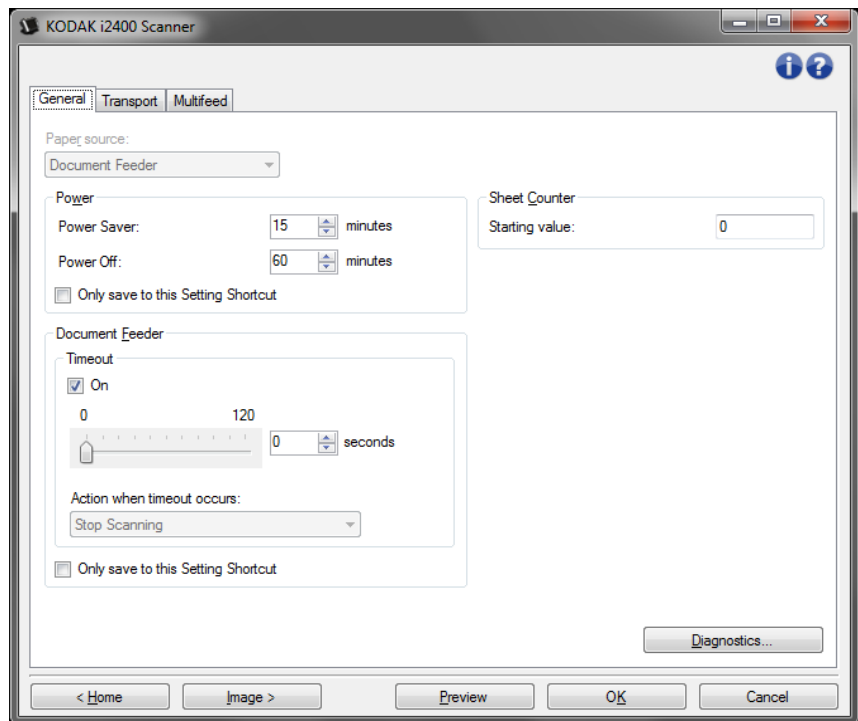
1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の [設定のショートカット] を選択します。
2. スキャナーメインウィンドウから、[入カドキュメントのタイプ] を選択します。
3. [設定] を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。



4. 設定内容を変更する前に、イメージ設定ウィンドウの各タブをクリックして、どのようなオプションや機能があるかを確認します。
 5. スキャン時に実行する各オプションを適切に選択します。
 6. オプションの結果を見たい場合は：
 - スキャナーの入カトレイに原稿を 1 枚セットします。
 - [プレビュー] を選択して、プレビュースキャンを実行します。
- 注：
- 表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別のショートカットを利用して設定を変更するか、もう一度イメージ設定ウィンドウの各タブを確認しながら現在のショートカットを使用して続行します。この手順は必要に応じて繰り返します。
 - 対話的に調整を行う場合は、最高品質のプレビューでイメージを表示します。
7. 設定が完了したら、[ホーム] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへ設定内容を保存します。

デバイス設定ウィンドウ

スキャナー固有のすべてのオプションや診断機能を、このウィンドウの利用可能なタブを使用して設定できます。デバイス設定に使用される値は、選択された【設定のショートカット】に保存されます。デバイス設定ウィンドウには、【一般】、【重送検知】タブがあります。



ホーム — スキャナーメインウィンドウに戻ります。

イメージ — [イメージ設定]ウィンドウを表示します。

プレビュー — スキャンを開始して、イメージ設定ウィンドウのプレビュー領域にスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

OK / スキャン — 選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注 : このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

キャンセル — 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

情報アイコン



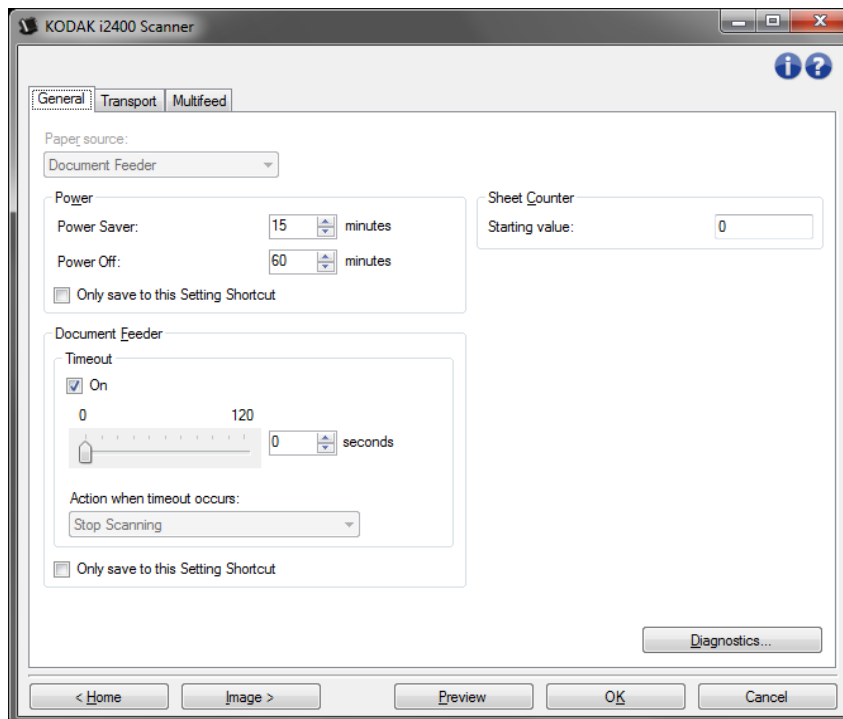
バージョン情報 : スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。



ヘルプ : 現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

デバイス - [一般] タブ

[一般] タブを使用して、スキャナー固有のオプションを設定したり、スキャナー診断にアクセスできます。



給紙方法

- **自動**：最初にドキュメントフィーダに原稿があるか確認します。入力トレイに原稿がない場合は、スキャナーはフラットベッドからスキャンします。
- **ドキュメントフィーダ**：スキャナーは入力トレイから原稿をスキャンします。
- **フラットベッド**：スキャナーはフラットベッドからスキャンします。

注：[自動] および [フラットベッド] オプションは、フラットベッドアクセサリが接続されている場合のみ利用できます。

節電モード — スキャナーが操作されていないときに省電力モードに移行するまでの時間を設定できます。

電源オフ — スキャナーの電源が自動的にオフになるまでの時間（分単位）を設定できます。

注：省電力設定は、すべての [設定のショートカット] で共有されます。
[この設定のショートカットにのみ反映] オプションを有効にしない限り、あらゆる変更は他のショートカットに反映されます。

ドキュメントフィーダ

- **タイムアウト**：最後の原稿がフィードされてからタイムアウトになるまでのスキャナーの待機時間を設定できます。

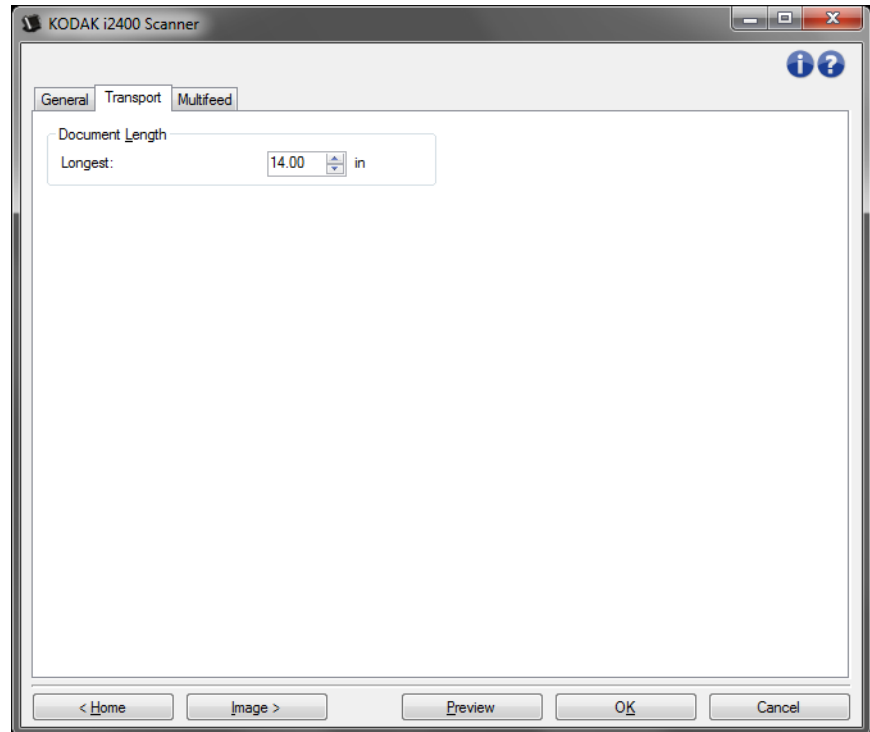
タイムアウト時のアクション：ドキュメントフィーダのタイムアウト時に実行するアクションを指定できます。

- **スキヤンの停止**：スキヤンを停止し、スキヤンアプリケーションに戻ります（ジョブの終了など）。

用紙枚数カウンタ — 次にスキャナーに入る用紙に割り当てる番号を入力します。これは、スキャナーによって順次カウントされ、イメージヘッダに送られます。

診断 — [診断] タブを表示します。

デバイス - [トランスポート] タブで、スキャナーのトランスポートエリアによる原稿の管理方法に対するオプションを設定できます。



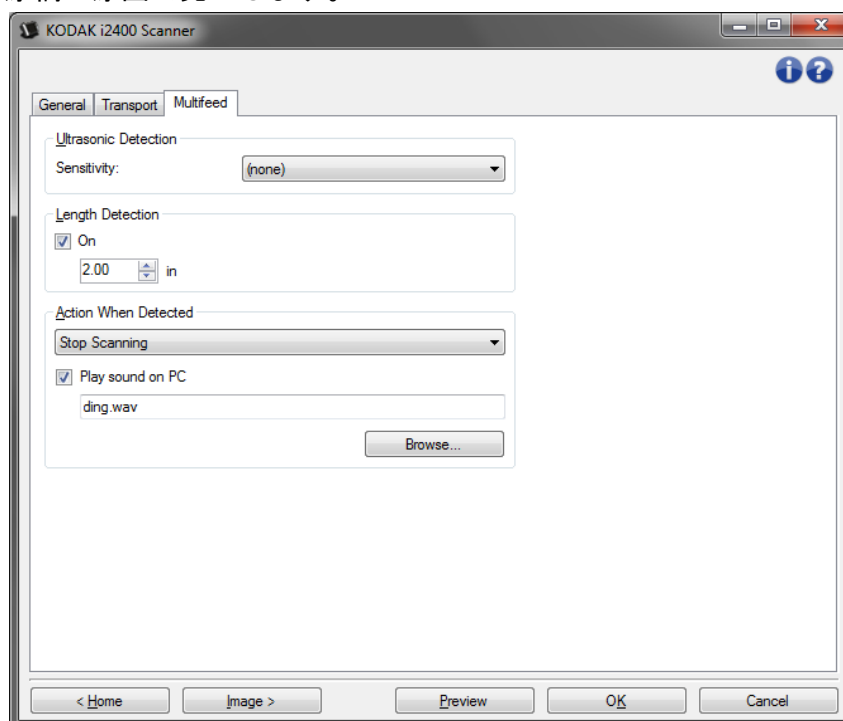
原稿長

最長 — 原稿セット内で最長の原稿サイズの値を設定します。

注：

- この値を変更すると、次の設定の最大値に影響します。**イメージサイズ - アウトライン、重送 - 長さ検知。**
- **[スキャン形式]**と**[解像度]**によっては、原稿の長さが制限される場合があります。より柔軟にアプリケーションに対応できるように、スキャナーは、許容値を超える原稿が確認されるまでエラーを生成しません。
- 長い原稿の場合、スキャナーの処理速度が減少することがあります。

重送検知機能は、原稿が重なった状態で給紙された時点で重送を検知します。重送はホチキスで綴じられた原稿、糊や静電気を帯びている原稿が原因で発生します。



超音波検知

感度 — 複数の原稿が重なった状態で送られたかどうかを検知する度合いを指定します。重送検知機能は、原稿との隙間を検知することにより、重なった原稿を識別します。そのため、厚さの異なる原稿が混在しているような場合でも、重送を検知することができます。

- **(なし)** : オプションを実行しません。
- **小** : レベルが低い設定で、ラベルを貼った原稿、紙質の悪い原稿、皺がある原稿を重送として認識する可能性が最も低くなります。
- **中** : 厚さが異なる原稿や、ラベルが貼られた原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にもよりますが、大部分のラベルは重送とは認識されません。
- **大** : 最もレベルが高い設定で重送を検出します。この設定は、すべての原稿が 20lb. 以下のボンド紙の厚さである場合など、厚さが同じ原稿をスキャンするのに適しています。

注 : 設定の内容に関係なく、「貼付された」メモは重送として検知されます。

長さによる検知 — ジョブ設定で原稿の最大の長さを選択できます。スキャナーがその長さ以上の原稿を検知すると、重送が生じたと判断します。このオプションをオフにするか、長さを設定できます。

検知時の動作 — 重送を検知した時のスキャナーの動作を選択します。

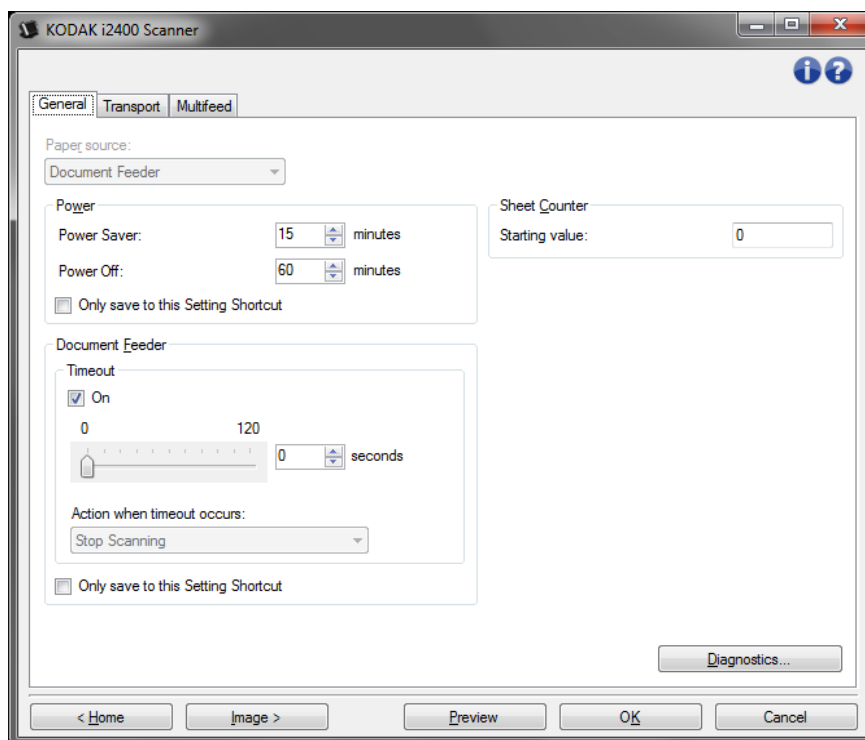
- **スキヤンの停止**：スキヤンを停止し、スキヤンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送路に原稿が残っていないことを確認後、スキヤンアプリケーションからスキヤンを再開してください。
- **スキヤン停止：イメージ生成**：スキヤンを停止し、スキヤンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送書類のイメージが生成されず。搬送路に原稿が残っていないことを確認後、スキヤンアプリケーションからスキヤンを再開してください。
- **スキヤンの停止 - 用紙を搬送部に残す**：スキヤンを直ちに停止し（搬送路はクリアされません）、スキヤンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送路から原稿を取り除き、スキヤンアプリケーションからスキヤンを再開してください。
- **スキヤンの継続**：スキャナーがスキヤンを継続します。

PC の音源を鳴らす — 重送検出時に音を鳴らす場合、このオプションを選択します。[参照] ボタンをクリックして、再生する .wav ファイルを選択できます。

注：コンピュータの音源は、スキャナーの重送検出時と同時に鳴らない場合があります。

デバイス設定の変更

1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の [設定のショートカット] を選択します。
2. [設定] を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. [デバイス] を選択すると、デバイス設定ウィンドウが表示されます。



4. 設定内容を変更する前に、デバイス設定ウィンドウの各タブをクリックして、どのようなオプションや機能があるかを確認します。
5. スキャン時に実行する各オプションを適切に選択します。
6. 設定が完了したら、[ホーム] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

[診断] ウィンドウ

このウィンドウではスキャナーの診断機能が使用できます。[診断] ウィンドウには [一般]、[コンポーネント]、[デバッグ]、[ログ] の各タブがあります。[診断] ウィンドウは、デバイス設定ウィンドウの [一般] タブにある [診断] ボタンからアクセスできます。

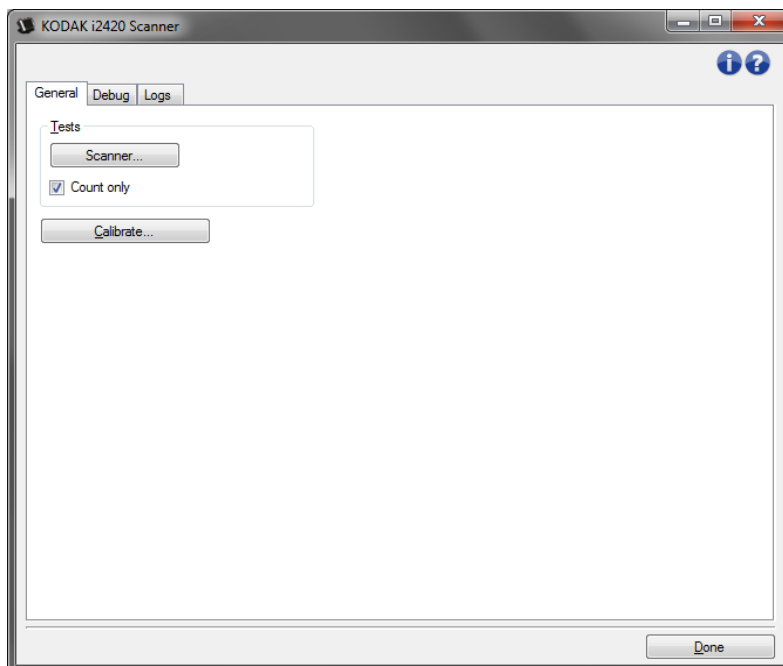
デバイス — 診断を実行するデバイスを選択します。[ドキュメントフィーダ] または [フラットベッド] が選択できます。

注 : このオプションは、フラットベッドアクセサリが接続されている場合のみ利用できます。

完了 — [デバイス設定] ウィンドウに戻ります。

診断 - [一般] タブ

[一般] タブでは、スキャナーのテストや、スキャナー時刻の確認ができます。




テスト

- **スキャナー** — 電源投入時のセルフテストと似ていますが、より詳細なテストを行います。このボタンをクリックすると、一連のデバイスチェックが行われ、スキャナーのハードウェアがすべて正常に動作しているかどうか確認します。
- **カウントオンリー** — スキャンアプリケーションにイメージを送信せずにスキャナーに入る原稿の枚数を数えます。このテストは、オプション有効時のスキャンセッション中に実行します。

注 : スキャンアプリケーションがスキャナーの接続から切れると、テストは自動的に終了します。

スキャナー時刻

- **標準時 (GMT)** : スキャナーのグリニッジ標準時間を表示します。
- **対応する現地時刻** : スキャナーのグリニッジ標準時間をコンピュータの現地時間帯で表示します。
- **更新アイコン**  : スキャナーの現在の時刻を再表示します。

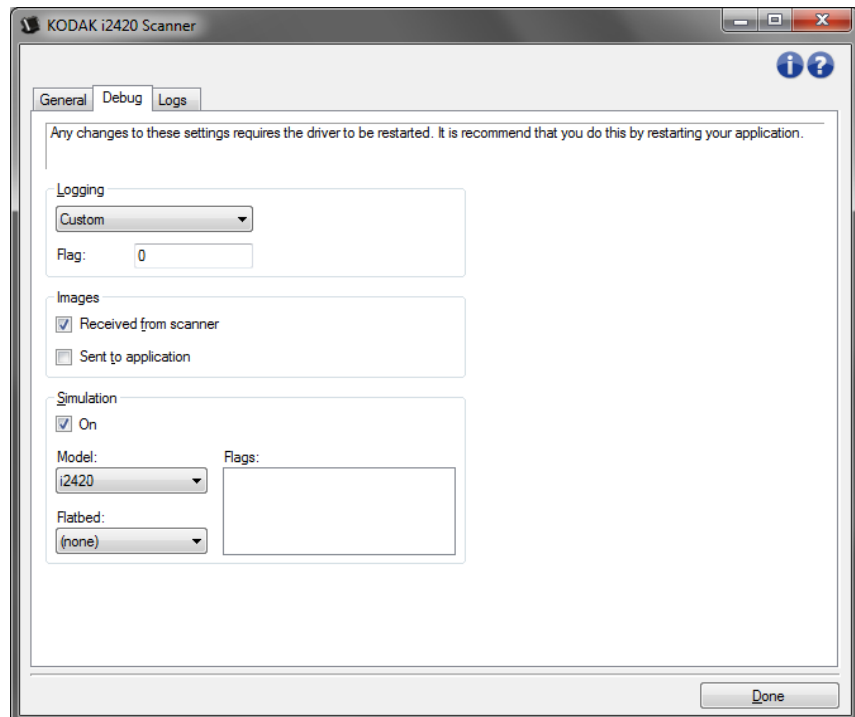
キャリブレーション—[キャリブレーション]ウィンドウを表示します。

診断 - [デバッグ] タブ

[デバッグ] タブは、スキャナーを使用中に発生した問題を診断するのに役立つオプションが使用できます。このタブは、サービス担当から指示がある場合のみ使用してください。

注：

- このタブにあるすべてのオプションは、現在選択されている設定のショートカットだけでなく、すべての設定のショートカットに適用され、即座に保存されます。
- このタブで行った変更を有効にするには、アプリケーションを再起動する必要があります。



ログ — スキャナーとスキャンアプリケーションの間で行われた通信を保存します。[OFF]、[ON]、[カスタム] が用意されています。

イメージ - スキャナーから受信 — スキャナーから PC に送信されたイメージを保存します。

イメージ - アプリケーションに送信 — スキャナーからスキャンアプリケーションに送信されたイメージを保存します。

シミュレーション — 実際にスキャナーを使用しないで TWAIN ドライバ/データソースを使用できます。

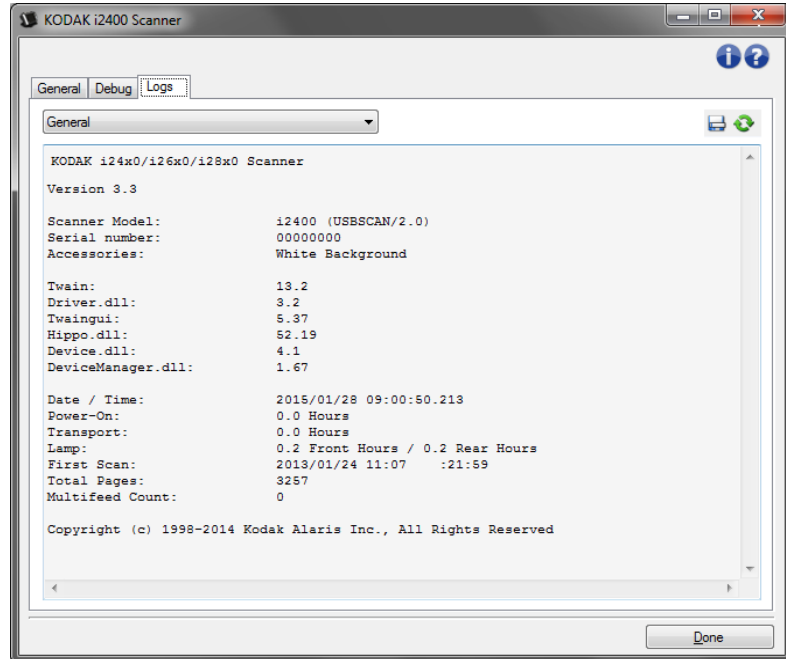
- **モデル**：特定のモデルを選択してシミュレーションを実行します。
- **フラットベッド**：フラットベッドアクセサリを選択してシミュレーションを実行します。
- **フラグ**：TWAIN ドライバ/データソースにサポートされている場合は、シミュレーションスキャナーにインストールされているアクセサリのリストが利用できます。

診断 - [ログ] タブ

[ログ] タブでスキャナー情報を確認できます。

ログ

- **一般**：スキャナーのバージョン情報、シリアル番号、インストールされたアクセサリ、メーターなどが表示されます。
- **オペレータ**：スキャナーのログが表示されます。このログはサポート担当者のみがクリアできます。



ツールバーボタン




名前を付けて保存：サポート担当者が閲覧できる様にすべてのログを保存します。選択すると [名前を付けて保存] ウィンドウが表示されます。

- **説明**：ログを保存する問題／理由の簡単な説明を入力します。
- **フォルダ**：ログの保存先です。
- **参照**：オペレーティングシステムの [ファイルを開く] ウィンドウが表示され、使用するフォルダを検索できます。
- **デバッグイメージを含む**：生成されたデバッグイメージをログと共に保存します。このオプションはデフォルトで有効になっています。サポート担当者から指示された場合のみ無効にしてください。
- **保存**：拡張子 .eklog でログファイルを保存します。



更新：現在表示されているログを更新します。



Kodak Alaris Inc.
2400 Mount Read Blvd.
Rochester, NY 14615

© 2015 Kodak Alaris Inc.
All rights reserved.

コダックの商標およびトレード
レスはイーストマンコダック社の
許可を受けて使用しています。